

令和5年度

## 社会福祉法人誠和 事業報告

### ➤ 事業報告概要

令和2年3月に新型コロナウイルス感染症が発生して3年が経過し、令和5年5月より第5類に移行しましたが、施設内においては感染防止対策に変わりはなく、相変わらず感染拡大防止は大きな負担となっております。しかし、新型コロナウイルスによる大きなクラスター発生はなく、利用者の生活維持ができております。

感染拡大防止に努めている状況ではありますが、ご家族の面会条件を緩和し、日常の行事等も通常に戻し、少しずつですが平常を取り戻しつつあります。

また、事業及び業務はおおむね安定しておりますが、物価高騰、電気代高騰などの影響により、運営的には大変厳しいものとなりました。

人材不足、人材育成は継続した課題ではありますが、個別ケアの推進、IoT化、多職種連携、外国人や介護助手の採用等が、生産性の向上、業務の効率化に繋がりました。

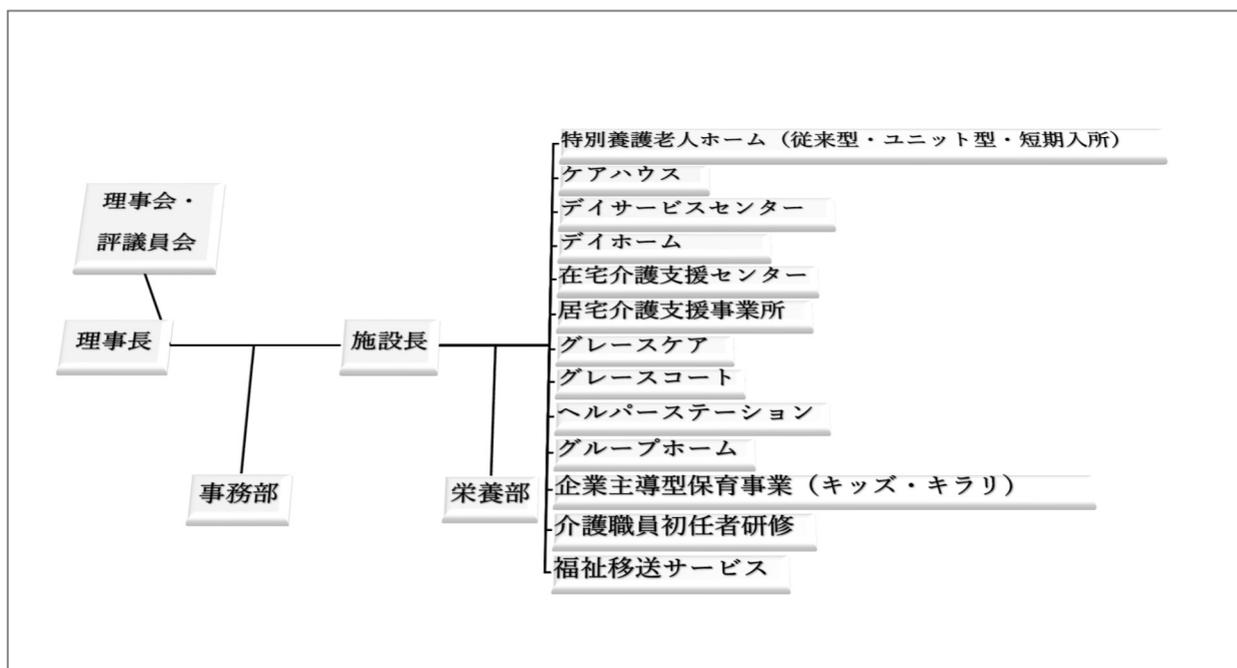
そして、利用者、家族等から選ばれるサービス提供に努め、利用者の自己決定を促し、自己実現に向けたその人らしい生活の支援に努めていくことが引き続き重要であると考えております。

### ➤ 重点取り組み事項

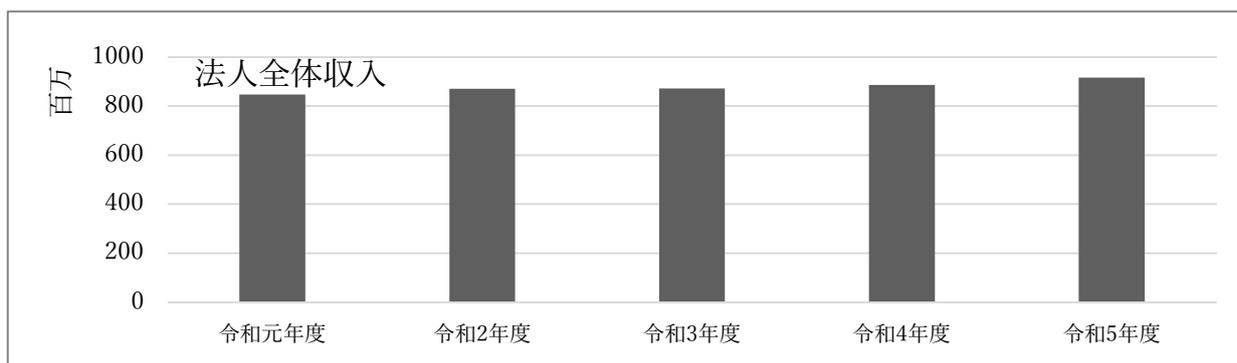
感染対策の徹底とIoT（Internet of Things）の推進により組織全体の生産性の向上と人員不足の解消に努め、職員のやりがいのある環境を整えることとする。そして、利用者、家族等から選ばれるサービス提供に努め、利用者の自己決定を促し、自己実現に向けたその人らしい生活の支援に努めてきました。

- 1) 感染対策を講じたサービス提供の工夫・充実
- 2) ガバナンスの強化に努めながら、加算取得による収益増
- 3) IoT、多職種連携や介護助手の配置、外国人労働者配置による業務プロセスの効率化
- 4) 介護機器や福祉用具を活用し、「抱えない介護」を推進し、腰痛予防等介護負担軽減
- 5) ホームページ等を通じて魅力ある生活環境、職場環境等の情報発信や関係機関担当者との連携の強化
- 6) 企業主導型保育事業の増設に伴い、既存事業所の業務見直しを図り、関係機関との連携と適切な運営

➤ 組織図



➤ 法人全体収入



➤ 事業所別取り組み事項

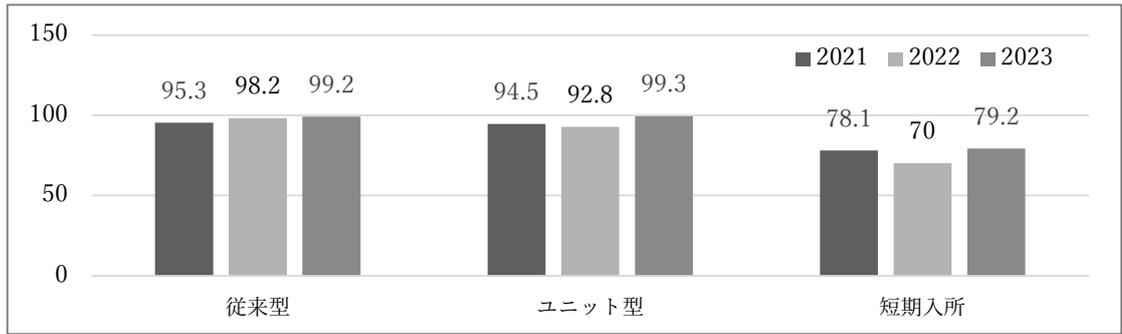
1. 社会福祉事業

① 特別養護老人ホームあじさいのおか牛窓（従来型・ユニット型・短期入所）

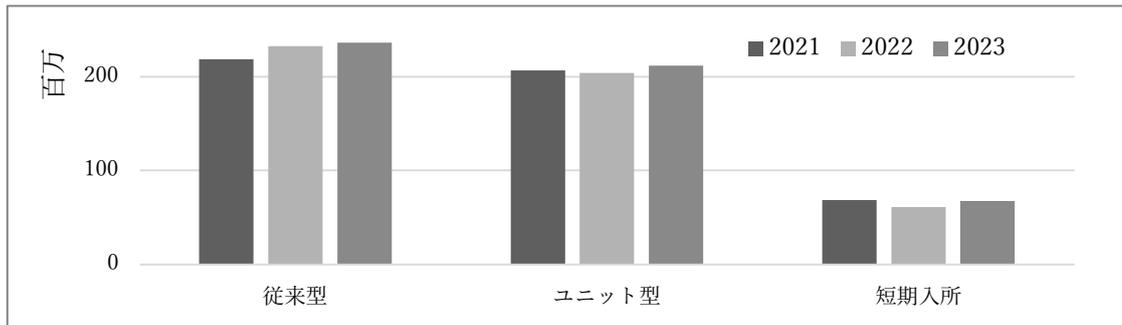
昨年5月に新型コロナウイルス感染症の分類が2類相当から5類に変更されました。当施設においては感染予防対策を講じつつ様々な行事やご家族等の対面面会の再開など、少しずつ元の生活に戻していく取り組みを進めてまいりました。また、業務においては新型コロナ禍で取り組んできたIoT活用による人員不足や感染症対策によるスタッフの負担軽減のための業務プロセスの効率化、多職種協働、介護助手等の人材確保に取り組み、介護助手の充足や多職種連携、外国人採用は介護職員の人員不足の解消の一助となっております。

特養全体としては利用年齢幅が広がり、高齢化・介護の重度化が顕著であり、入退所が例年以上に多い年度となりました。新規入所者には、岡山市が保険者であるケース、短期入所では邑久町利用者が増加傾向となっております。利用負担段階は第3段階②及び第4段階の増加、短期入所利用者の新規受け入れの増加、特養待機者は減少傾向となっております。

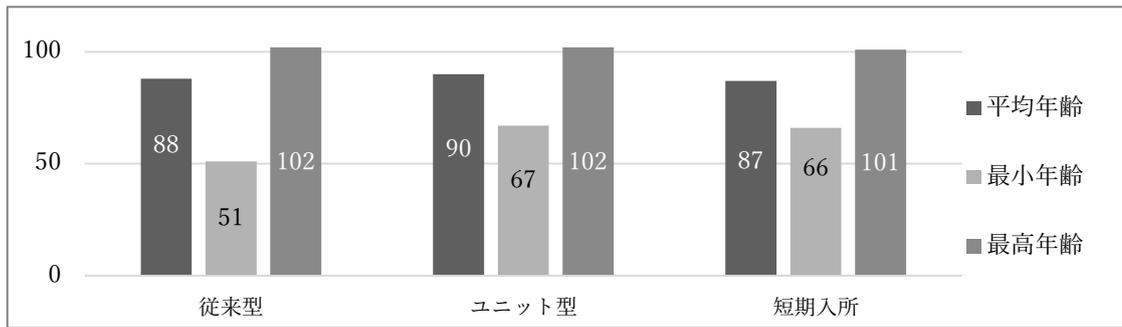
● 稼働率（従来型・ユニット型・短期入所）



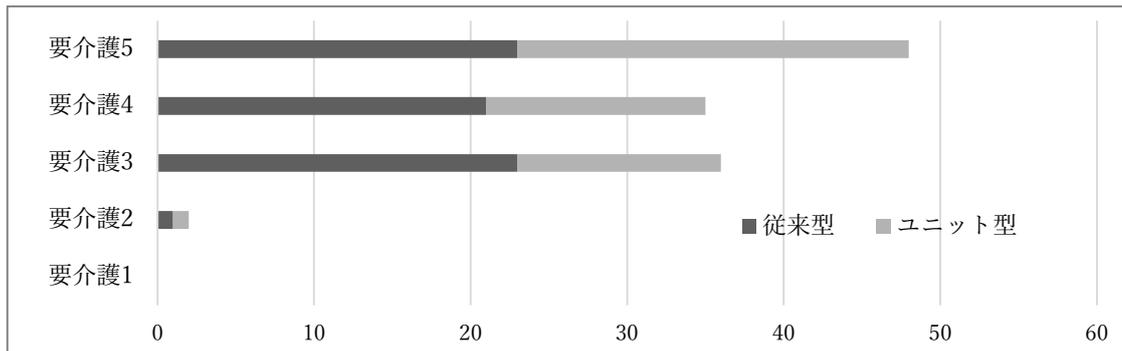
● 収入（従来型・ユニット型・短期入所）



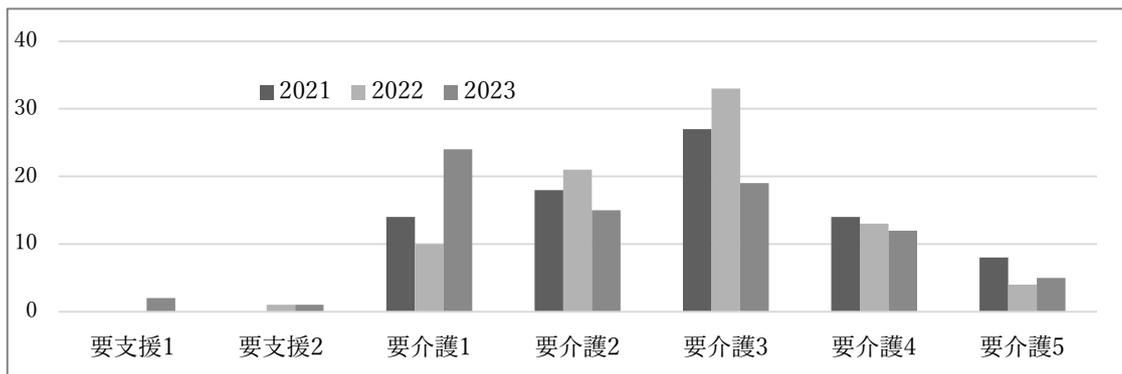
● 年齢（従来型・ユニット型・短期入所）



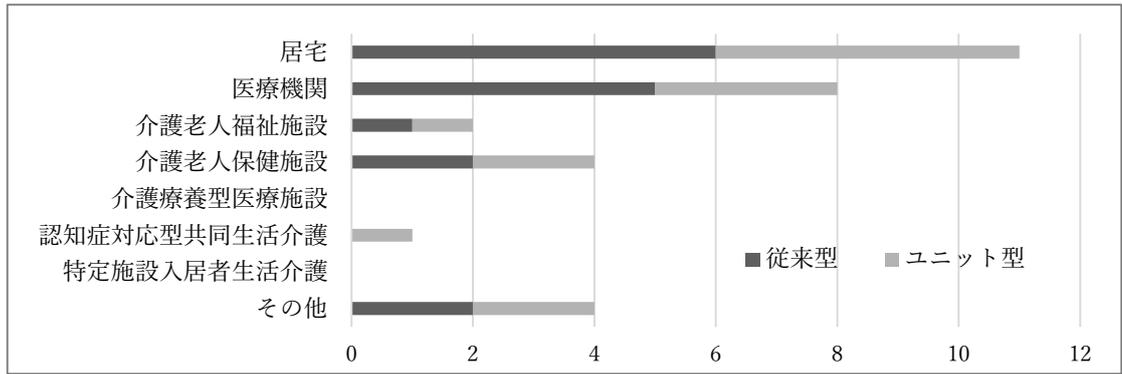
● 介護区分別 利用者数（従来型・ユニット型）



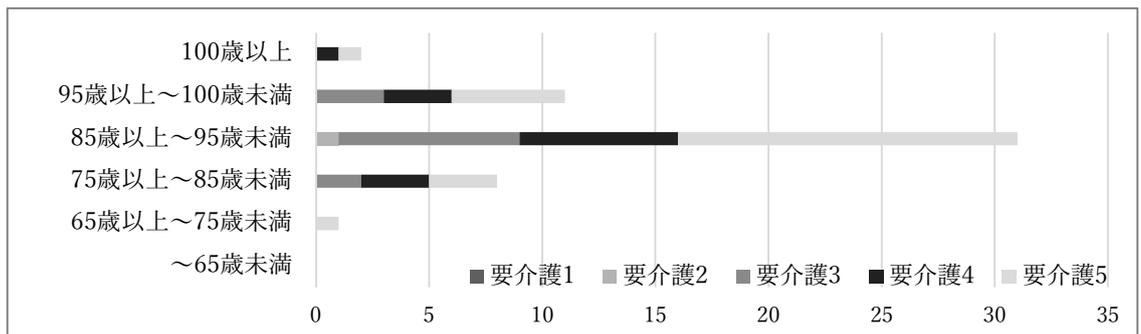
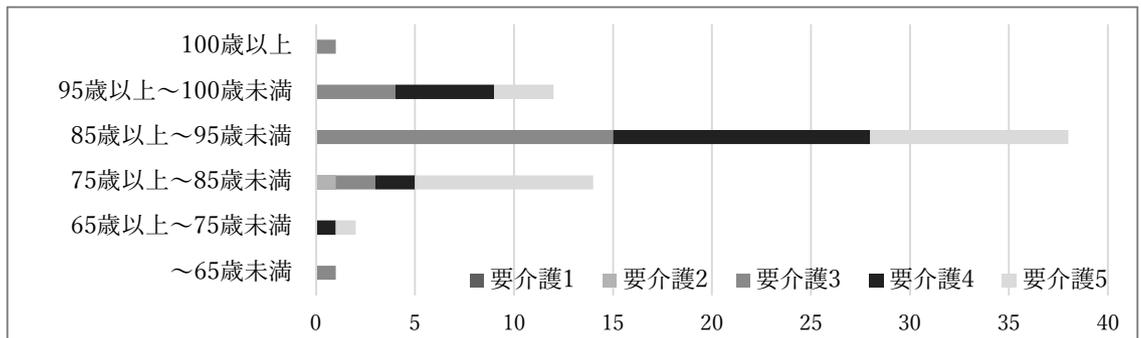
● 介護区分別 利用者数（短期入所）



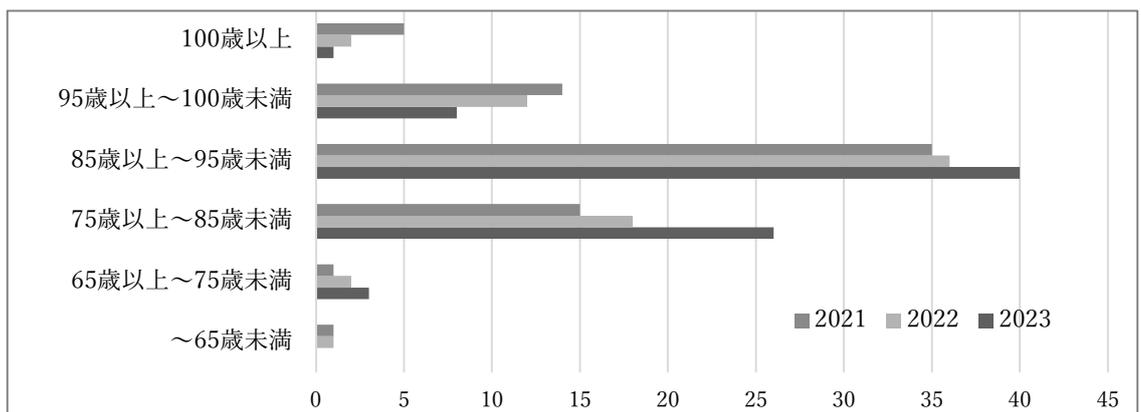
● 新規入所者入所前状況（従来型・ユニット型）



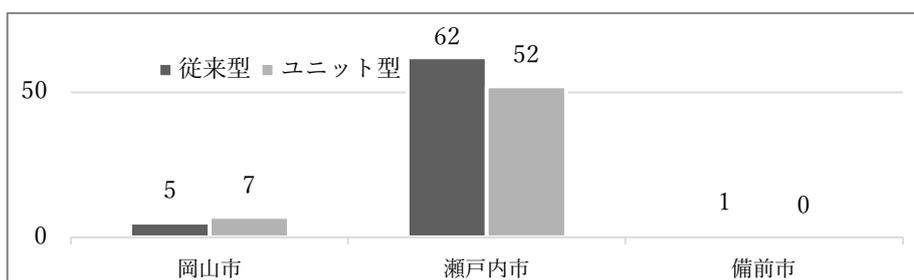
● 年齢別 要介護状態区分別 利用者数（従来型 [上]・ユニット型 [下]）



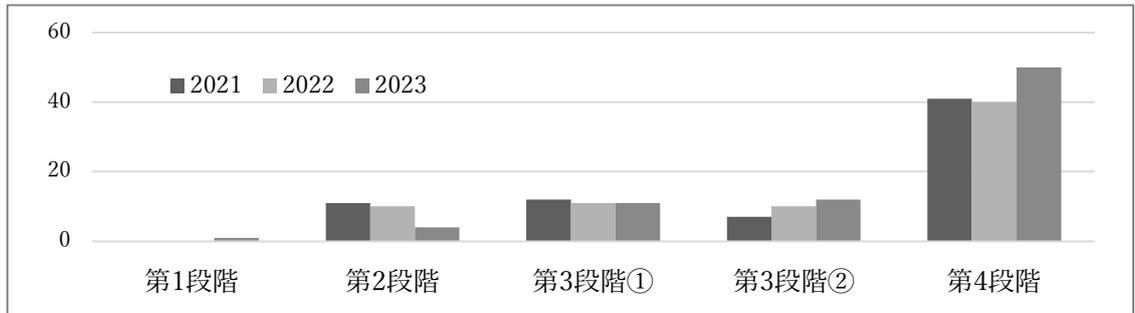
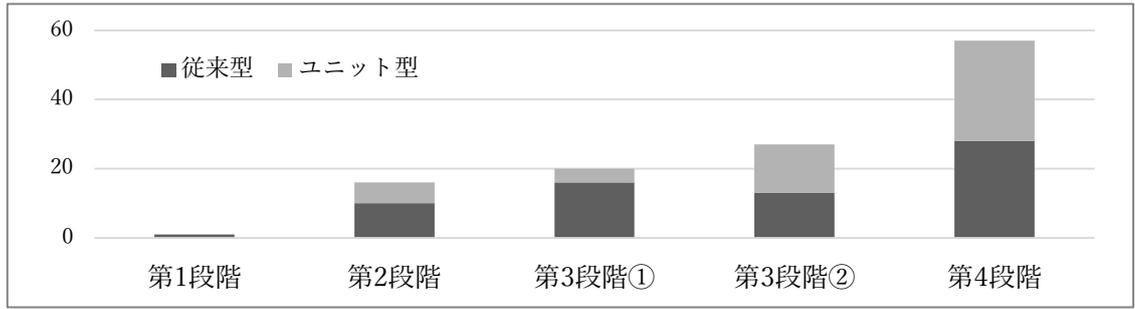
● 年齢別 要介護状態区分別 利用者数（短期入所）



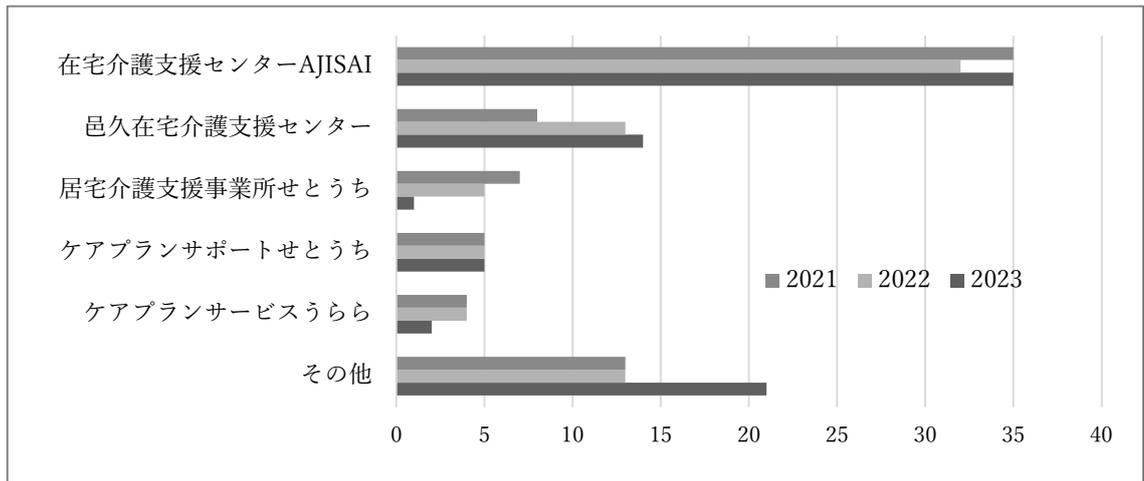
● 入所者保険者内訳（従来型・ユニット型）



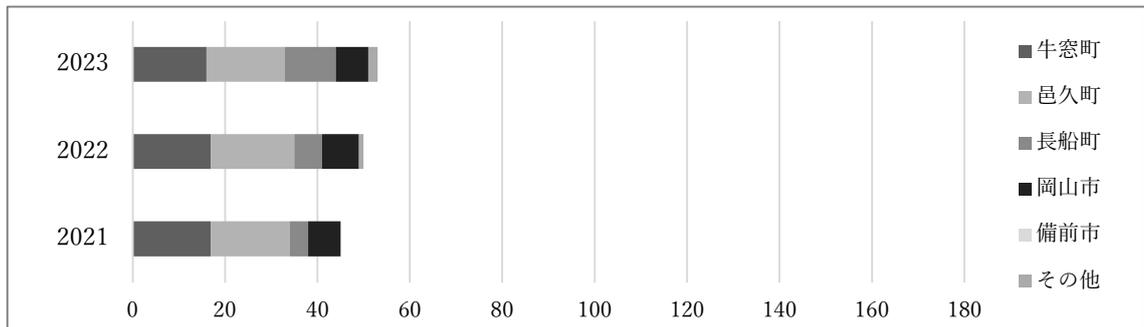
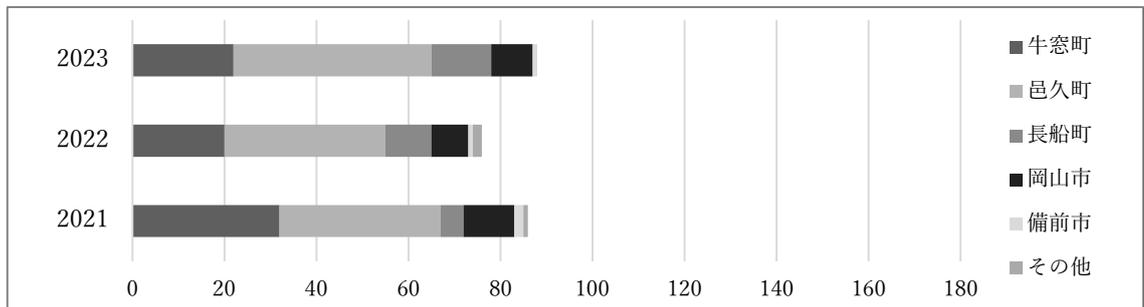
● 負担限度額（従来型・ユニット型 [上] 短期入所 [下]）



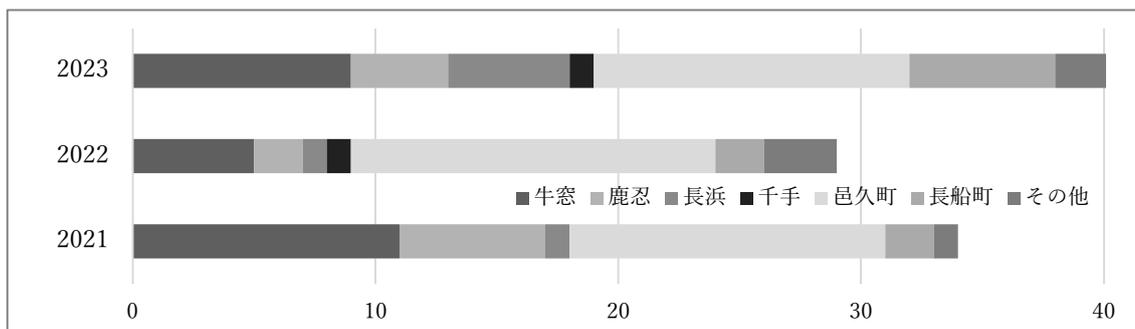
● 居宅介護支援事業所別 利用者数（短期入所）



● 地区別 待機者数（従来型 [上]・ユニット型 [下]）（年度末時点）



● 地区別 新規利用者数（短期入所）

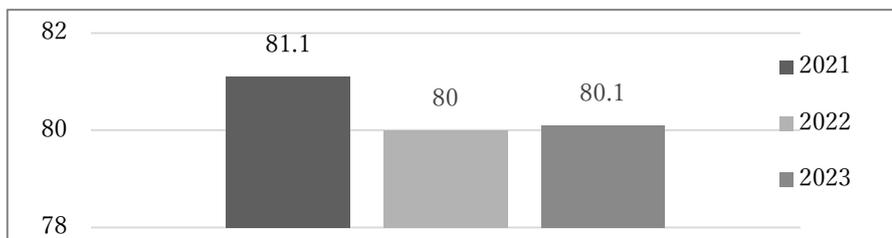


② ケアハウス紫陽花

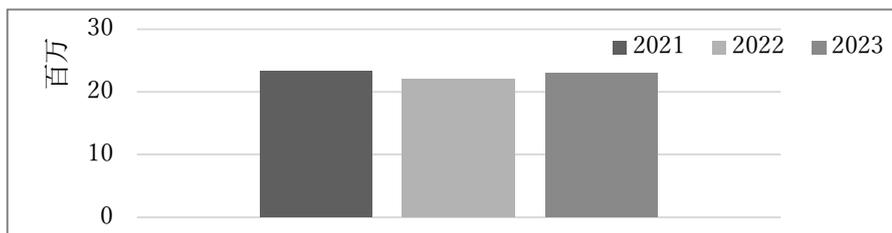
新型コロナウイルス感染症の対策が徐々に緩和され、サービスの提供についても徐々に制限が緩和されてきました。外出行事も計画を立てていますが、入居者の重度化もあり、新型コロナウイルス感染症以前に行っていたサービスの提供が難しくなっています。施設内でも楽しく過ごしていただけるように、レクリエーション等の充実に努めてきました。

入居者の状態については、要介護状態で新規入居してこられ、要支援、要介護者の割合が増加傾向となっています。

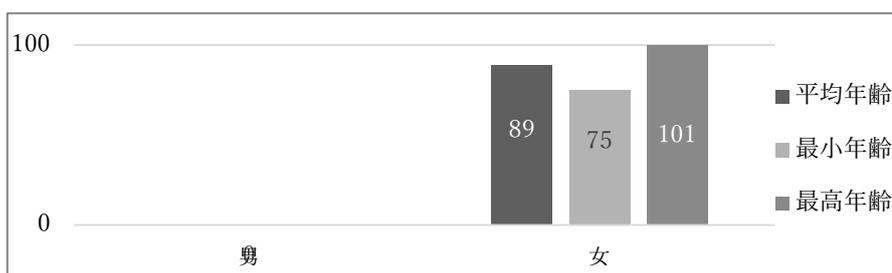
● 稼働率



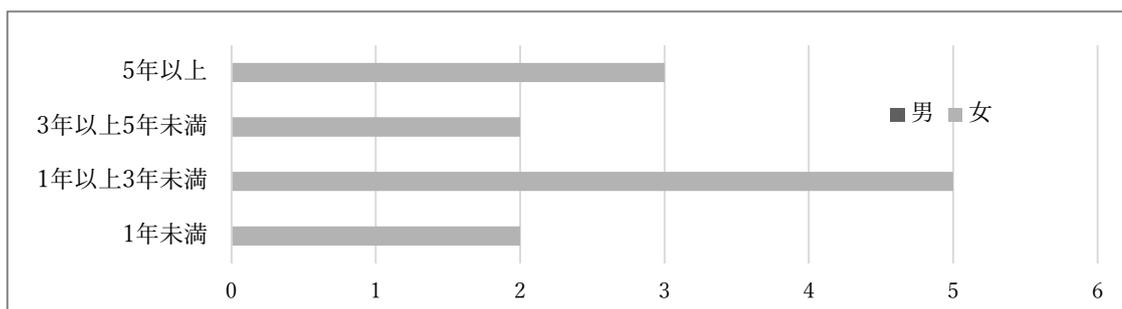
● 収入



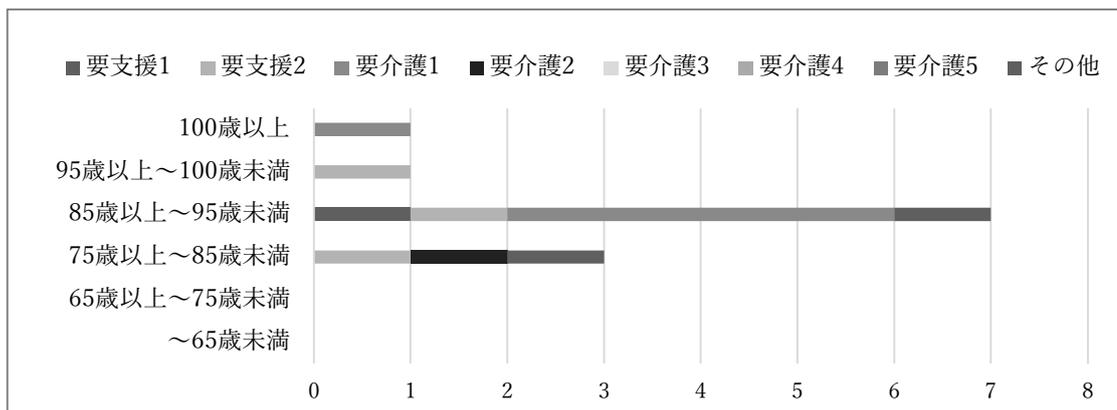
● 年齢



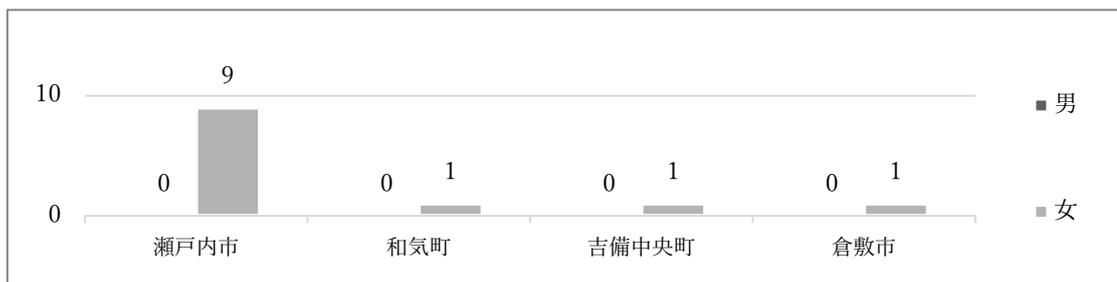
● 入所期間



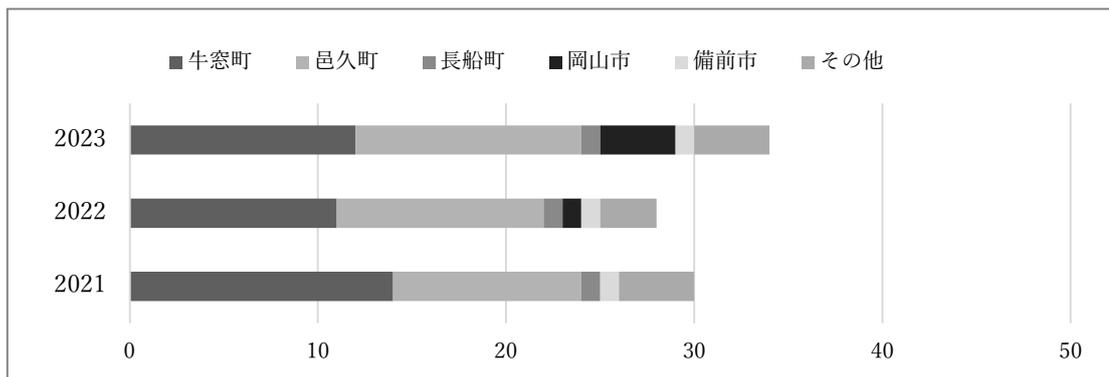
● 年齢別 要介護状態区分別 利用者数



● 入居者保険者内訳



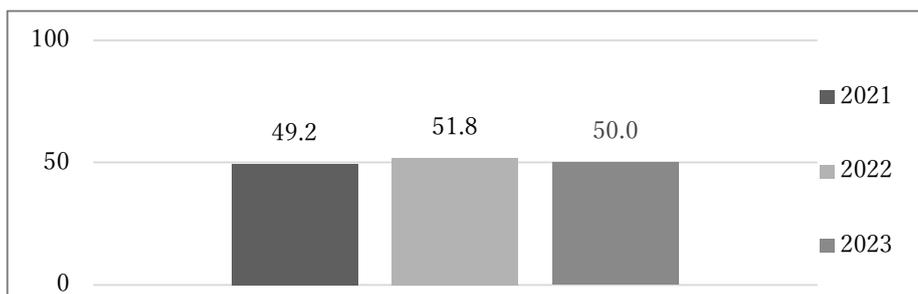
● 地区別 待機者数（年度末時点）



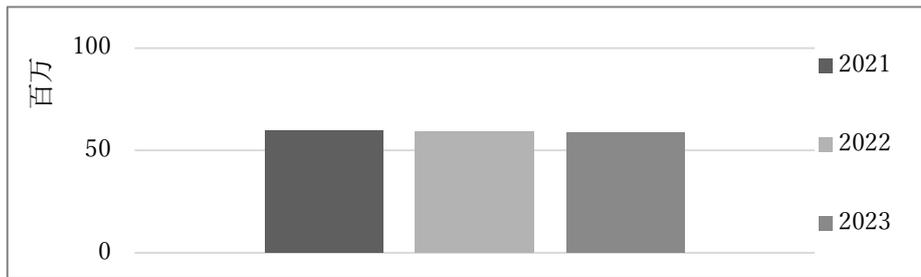
③ デイサービスセンターあじさい（通所介護・介護予防・日常生活支援総合事業）

新型コロナウイルス感染症が5類となって、以前のような生活に戻りつつあり、行事やボランティア受け入れの再開が順次行われてきましたが、新規利用者の減少や、施設入所や入院等の増加による中止者が利用率の低下にみられました。前年度同様、牛窓町居住者の新規利用の減少が見られ、邑久町やそれ以外からの相談の割合が増えています。サービス内容の充実により、男性利用者の利用定着率にやや向上が見られ、今後もサービスの選択肢を増やしていくことが課題と考えます。

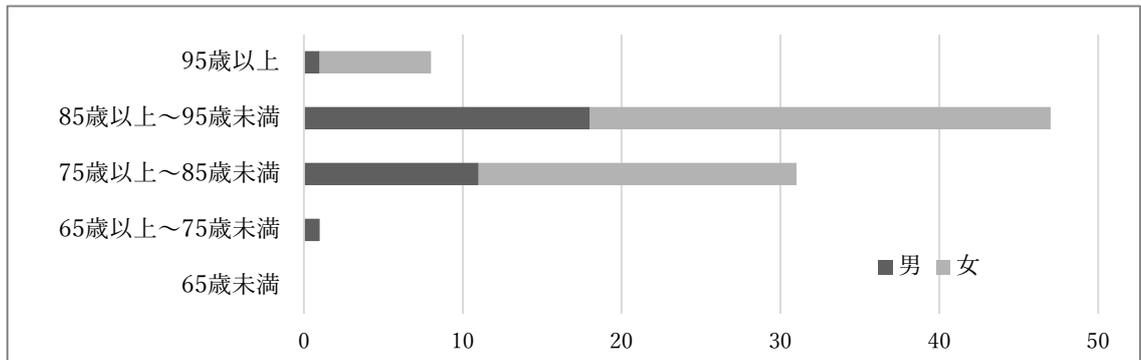
● 稼働率



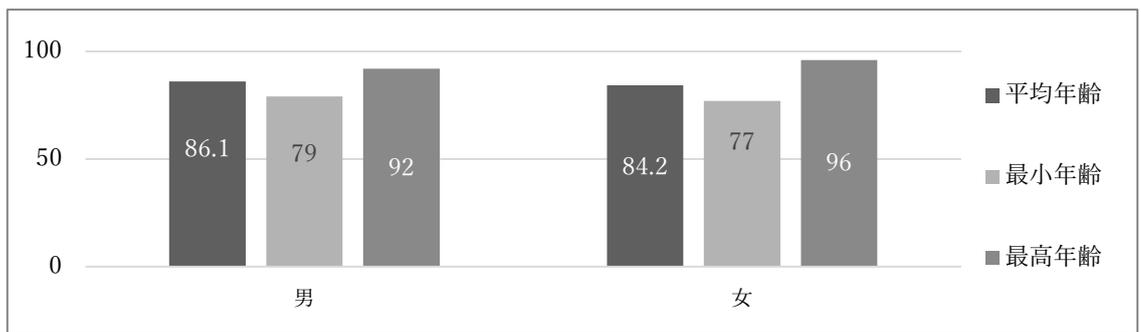
● 収入



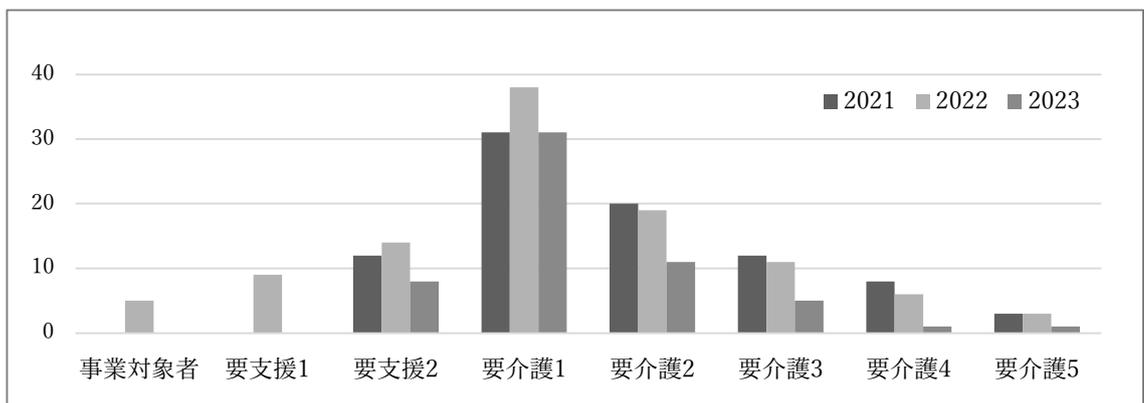
● 年齢別 利用者数



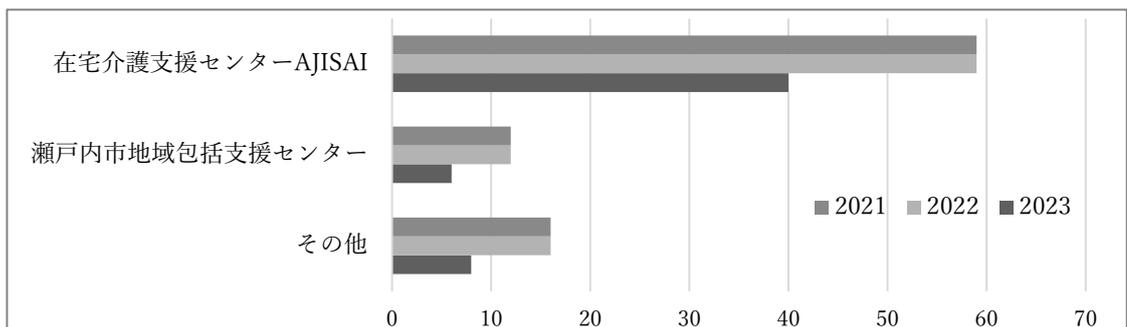
● 年齢



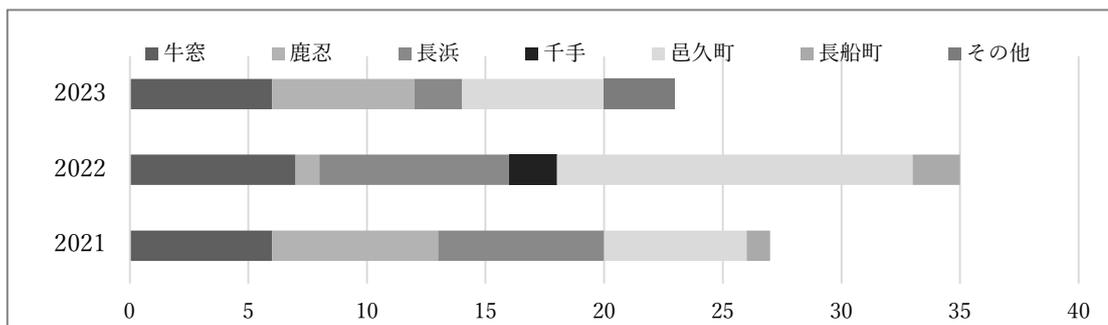
● 要介護状態区分別 利用者数



● 居宅介護支援事業所別 利用者数



● 地区別 新規利用者数

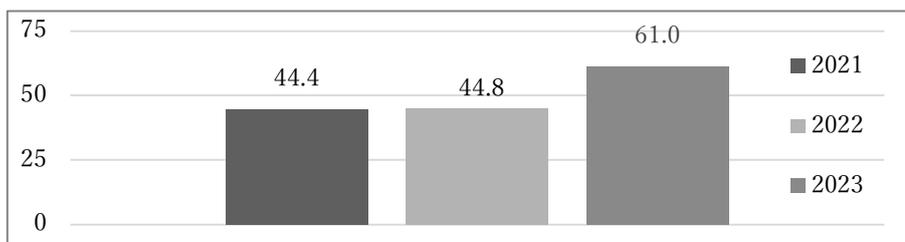


④ デイホームあじさい (認知症対応型通所介護)

年度初め頃より新規利用の増加、既存利用者のサービス増加のケースが増えたため、利用率の大幅増がみられました。新型コロナウイルス感染症が5類となり、以前行っていた行事・ボランティア受け入れの再開により、利用者満足度の向上となったと考えられます。

一人当たりの利用回数が多い方が大半を占めているため、入所や長期入院となった場合に利用率が大幅に減少するため、今後も継続して新規利用者の確保をしていくことが課題となっています。

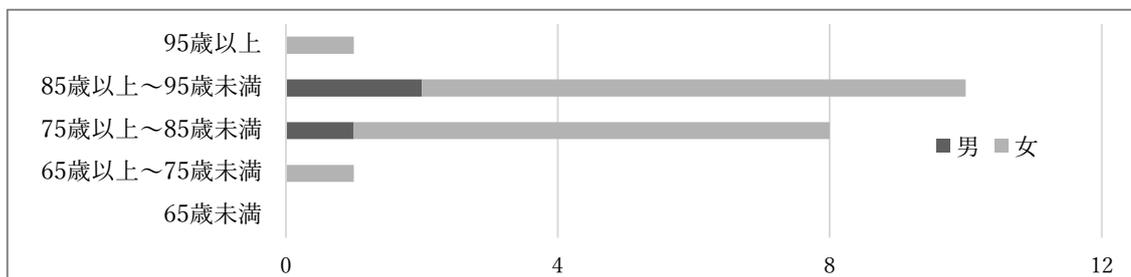
● 稼働率



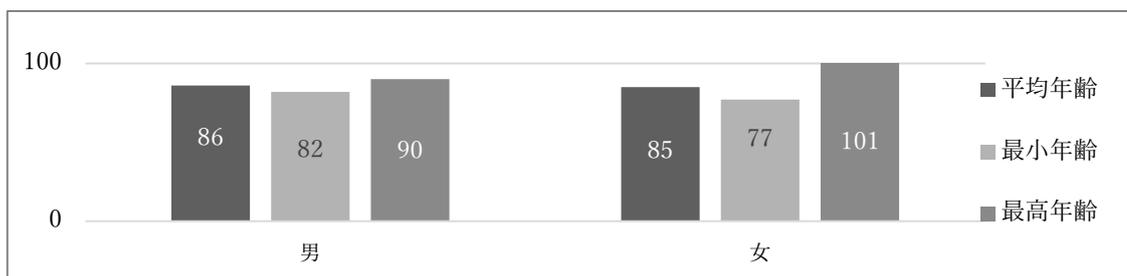
● 収入



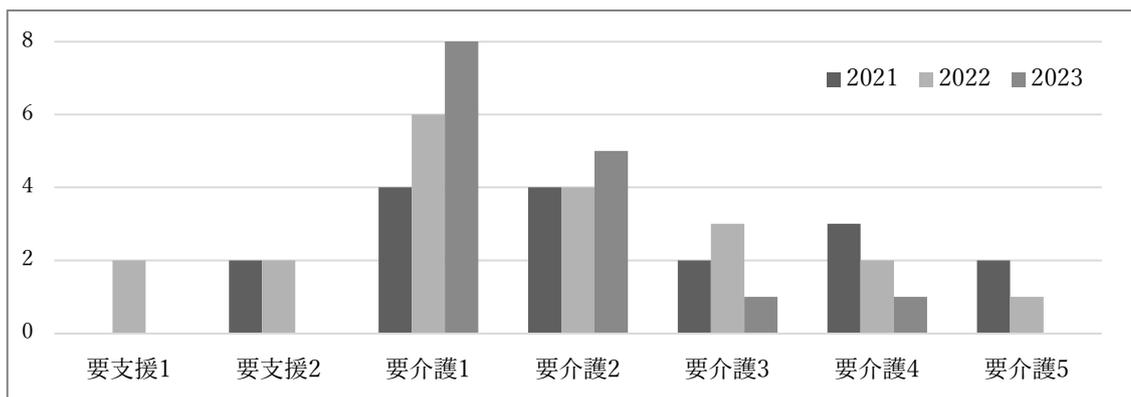
● 年齢別 利用者数



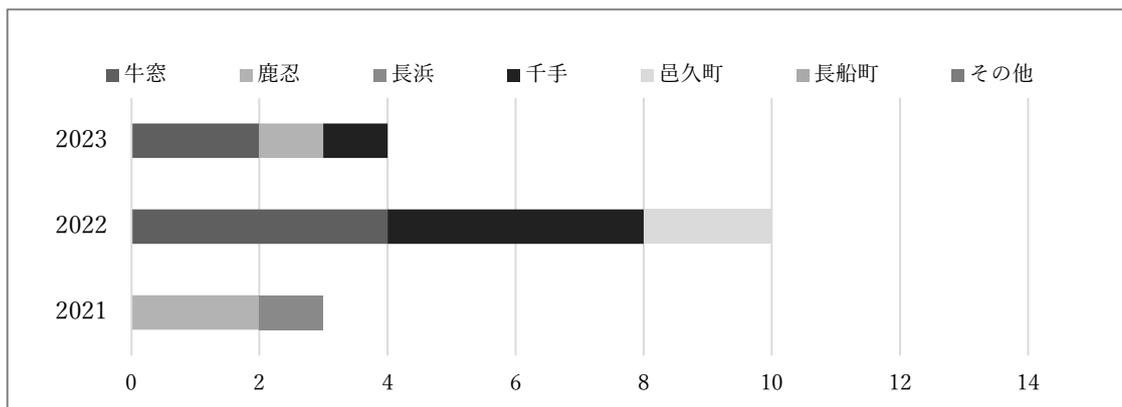
● 年齢



- 要介護状態区分別 利用者数



- 地区別 新規利用者数

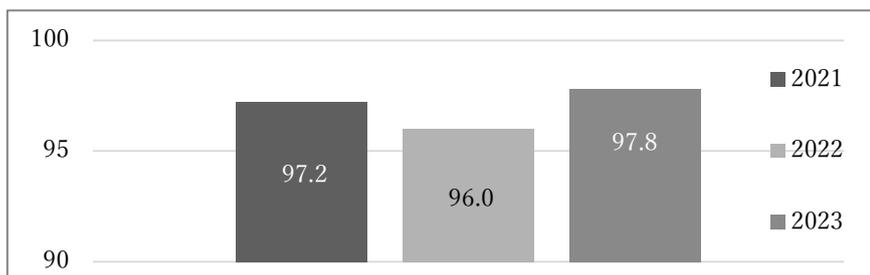


⑤ グループホームあじさい

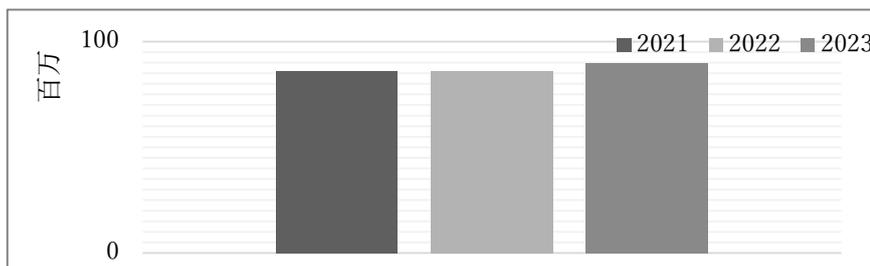
介護保険制度改正に伴い自己評価制度を導入し、サービスの自己点検を行うこととなりましたが、PDCA サイクルの運用においては、より充実させることが重要となっております。新型コロナウイルス感染症の影響による面会制限などから、家族への定期的な情報提供などにも努めてまいりました。

介護職員の負担軽減のためのIoT化による業務プロセスの効率化が課題となっております。

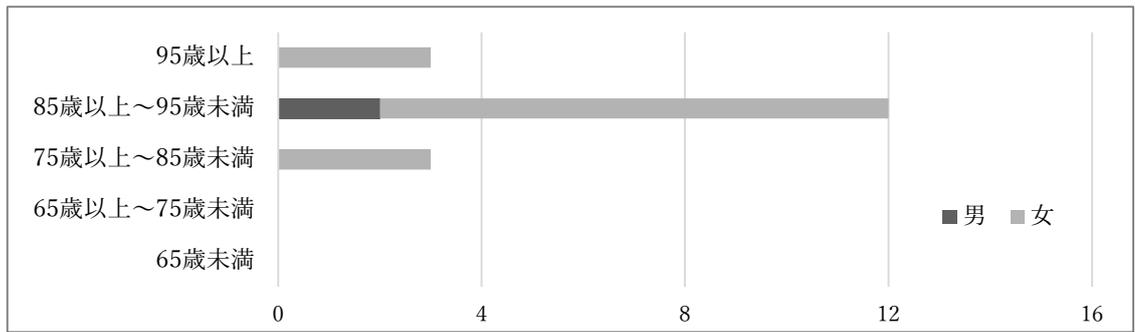
- 稼働率



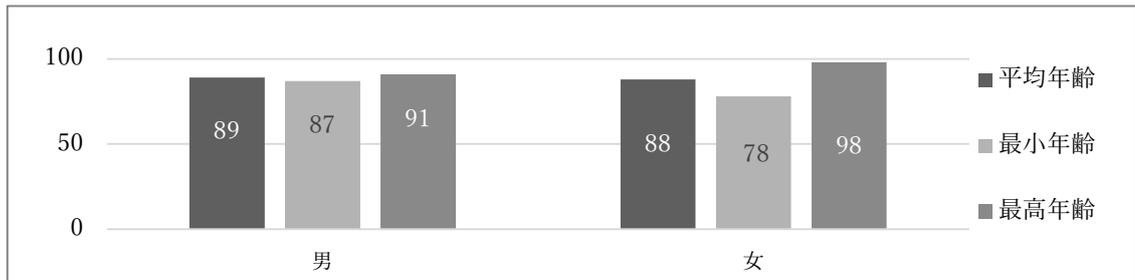
- 収入



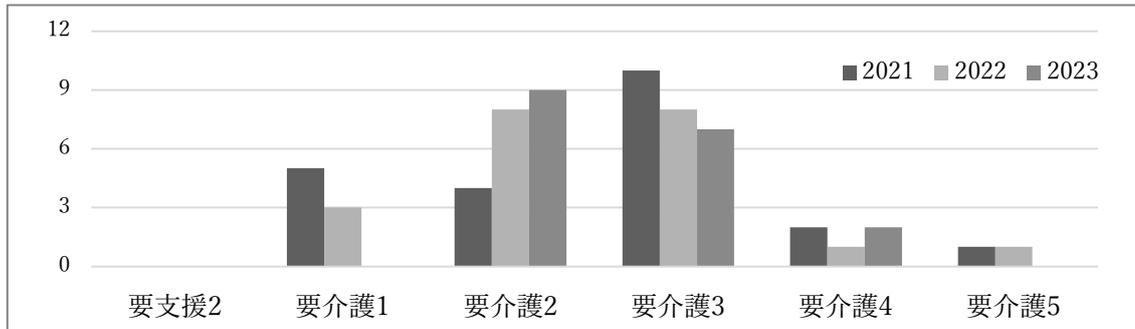
● 年齢別 利用者数



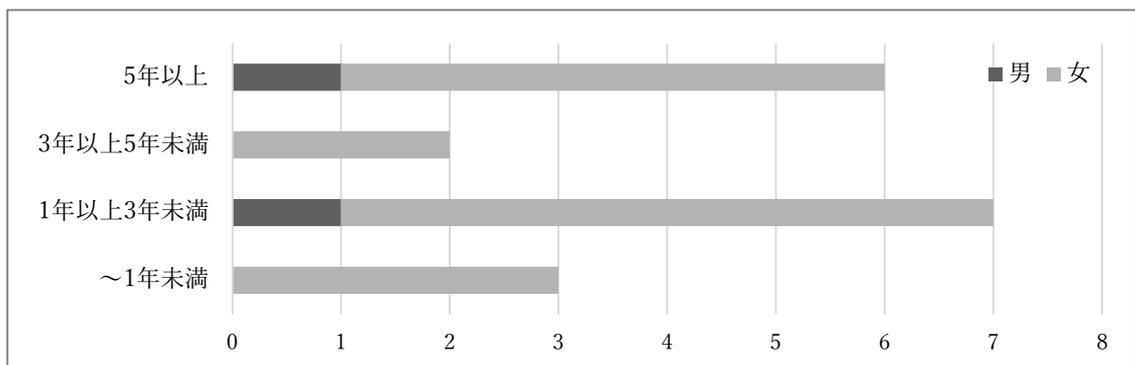
● 年齢



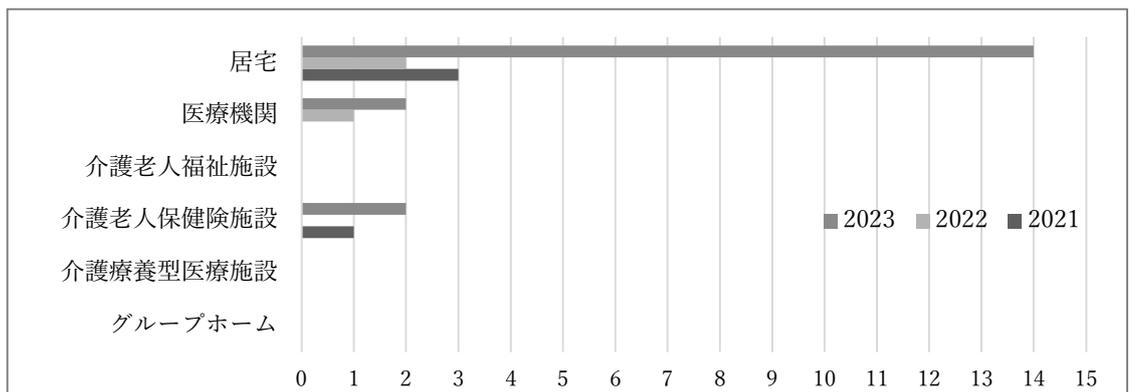
● 要介護状態区分別 利用者数



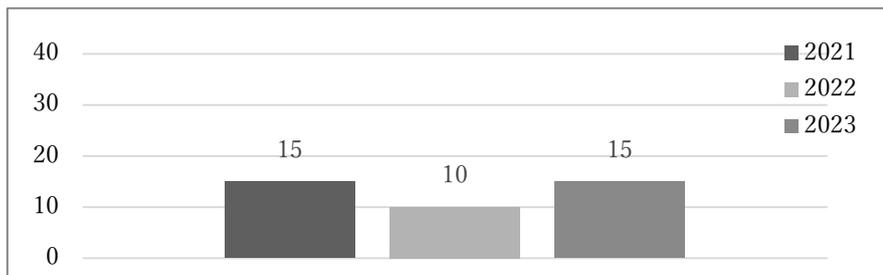
● 入所期間



● 新規入所前状況



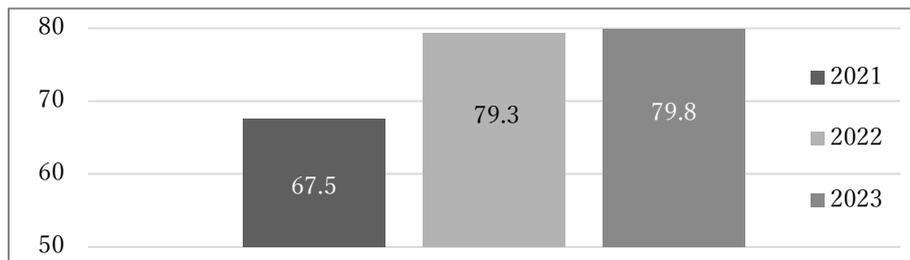
- 待機者数（年度末時点）



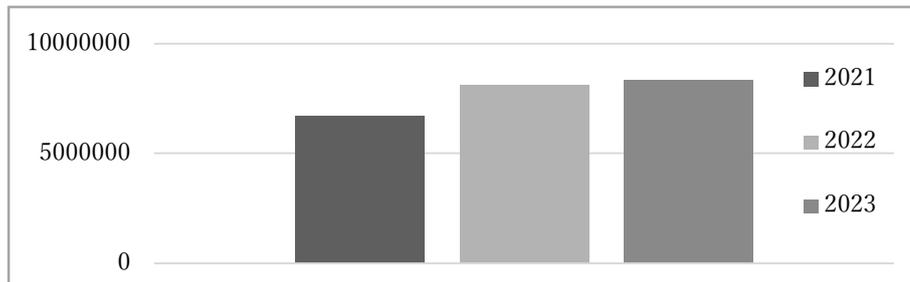
⑥ ヘルパーステーションあじさい（訪問介護・介護予防・日常生活支援総合事業）

在宅利用者の軽度化・地域における入所施設の増加などから、利用者確保が難しい事業ではありますが、利用者数に増加傾向がみられております。ただし、新規利用者は要支援者が多くを占めています。利用者の若年化の傾向もみられ、介護度の方も軽度化傾向となっておりますが、引き続き新規利用者（要介護者）の確保に努めます。稼働率、収入ともに大きな変化はありませんでした。

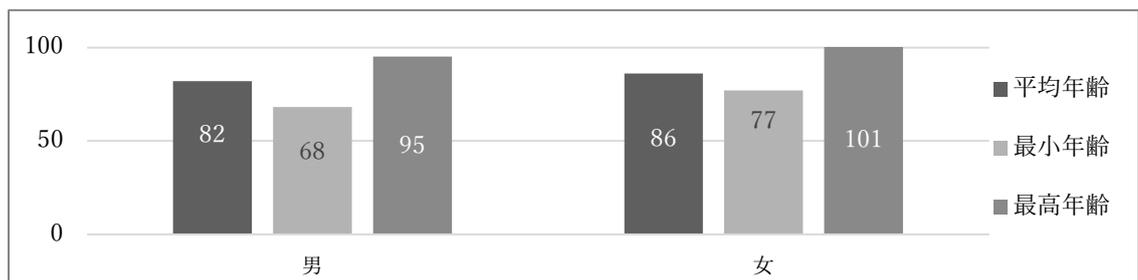
- 稼働率



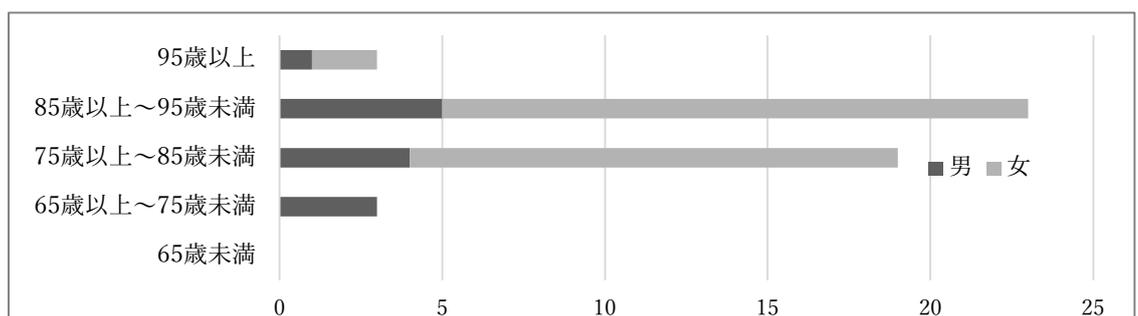
- 収入



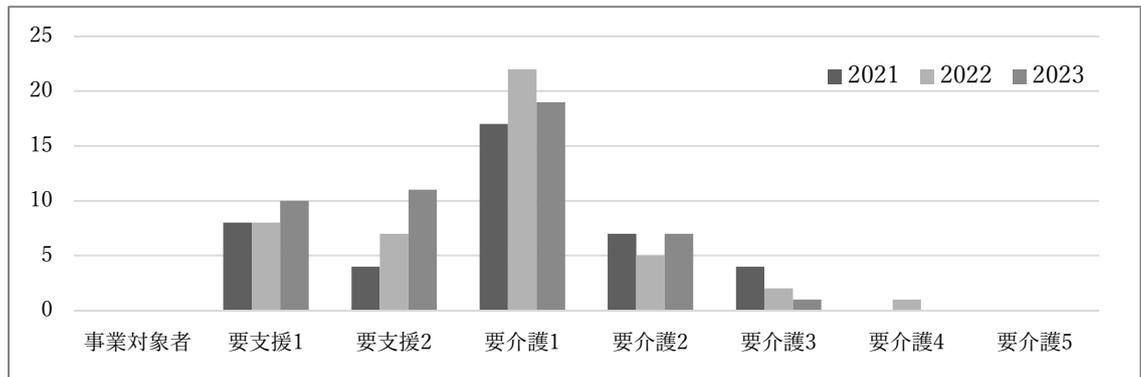
- 年齢



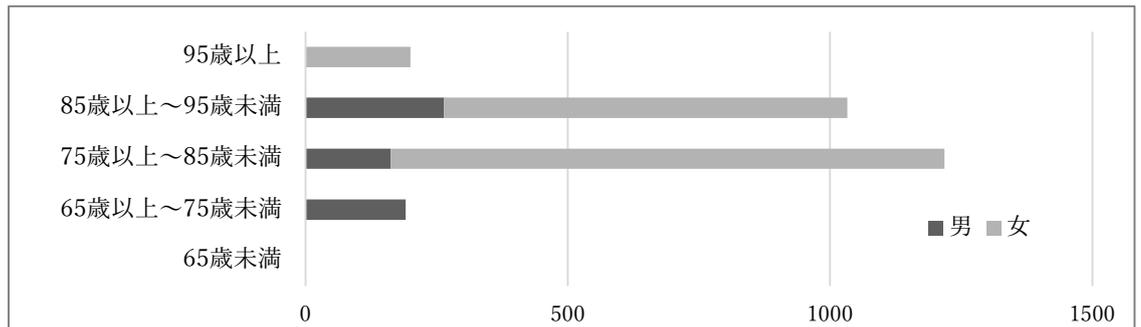
- 年齢別 利用者数



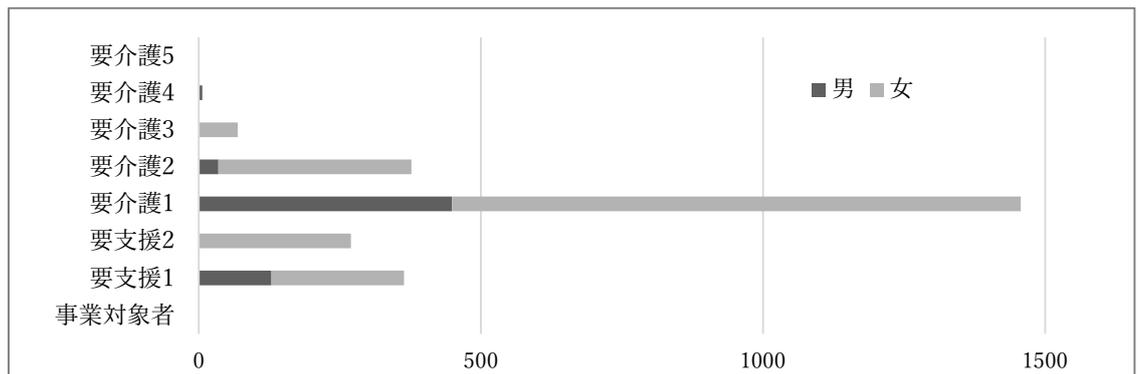
● 要介護状態区分別 利用者数



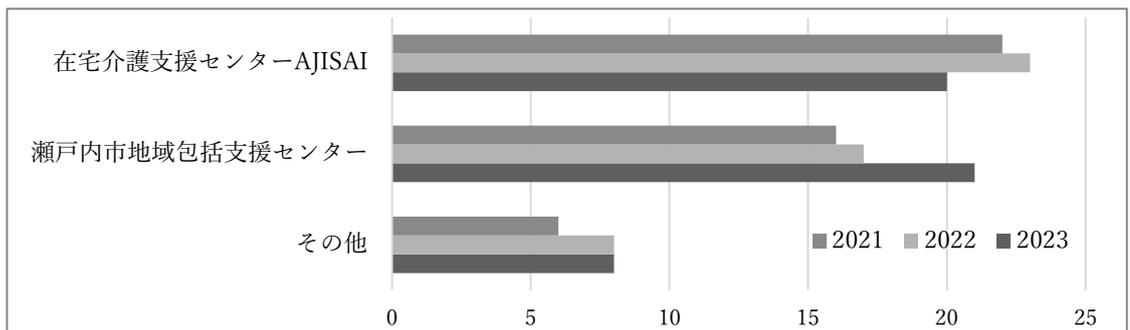
● 年齢別 訪問回数



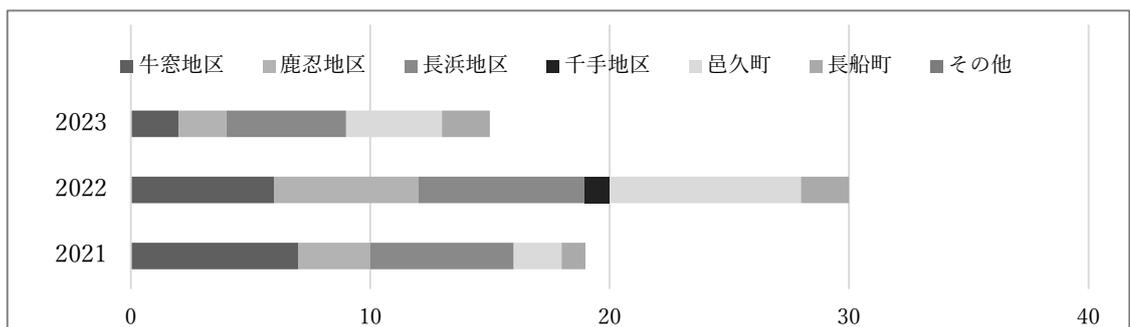
● 要介護状態区分別 訪問回数



● 居宅介護支援事業所別 利用者数



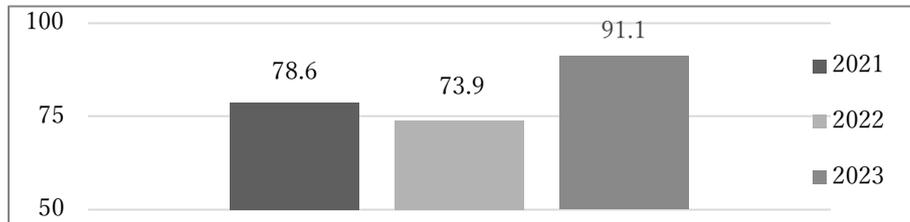
● 地区別 新規利用者数



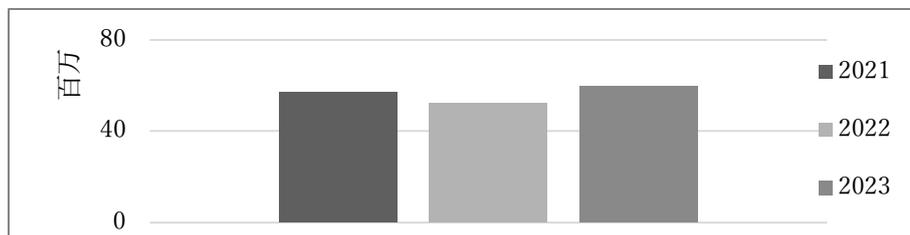
## ⑦ グレースケアあじさい

小規模多機能という機能上柔軟な対応が可能であるという利点もありますが、その反面、利用料が月額で割高であることから、利用に繋がりにくい事業所ではあります。令和5年度については、併設のサービス付き高齢者向け住宅も満床となり、地域からの利用希望も増えたため、一時登録数が28名とほぼ満員まで確保できました。宿泊希望の増加や訪問についての問い合わせも増えているため、サービス内容の充実について今後の課題となっております。

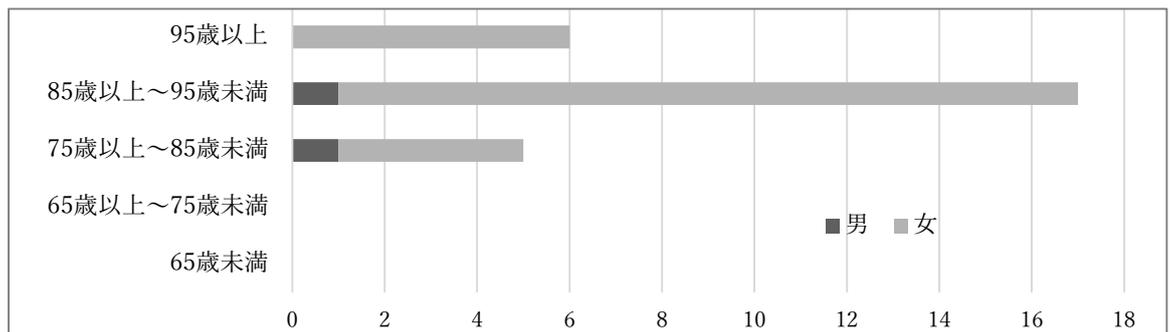
### ● 稼働率



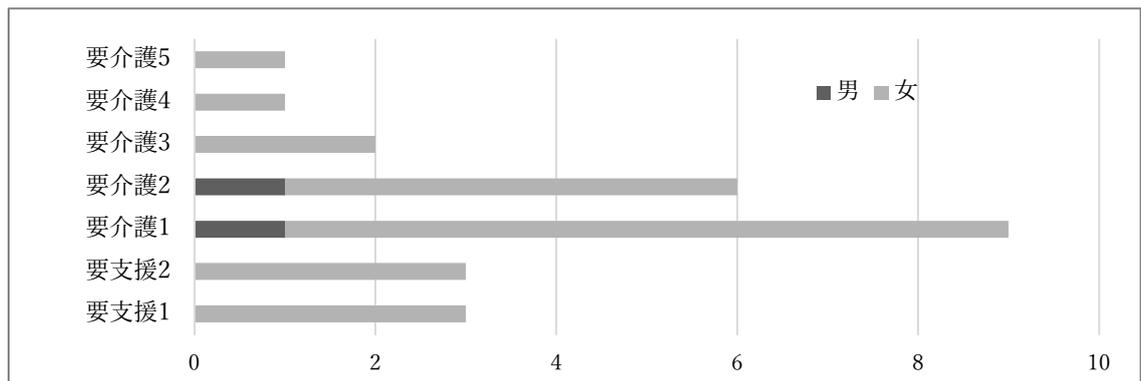
### ● 収入



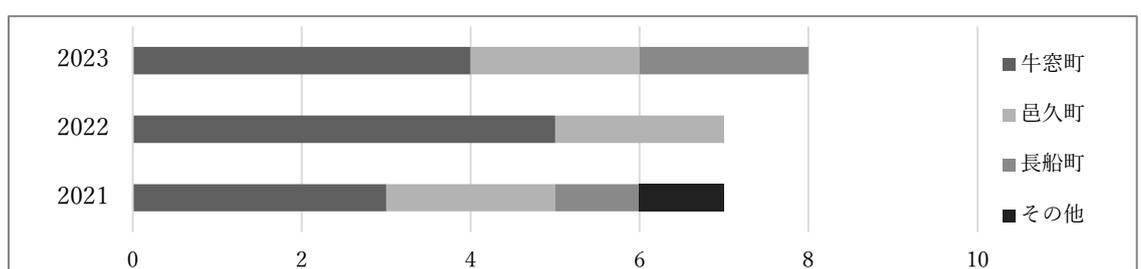
### ● 年齢（令和6年3月31日時点）



### ● 要介護状態区分別 利用者数



### ● 地区別 新規利用者数

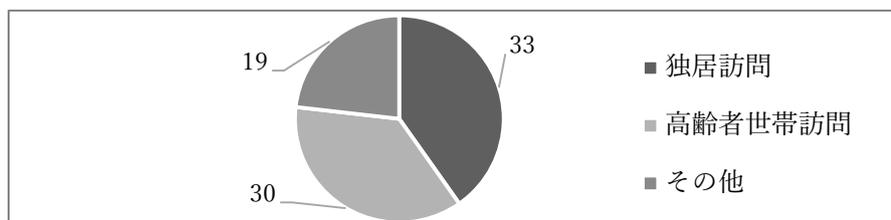


### ⑧ 在宅介護支援センターAJISAI（地域包括支援センターブランチ）

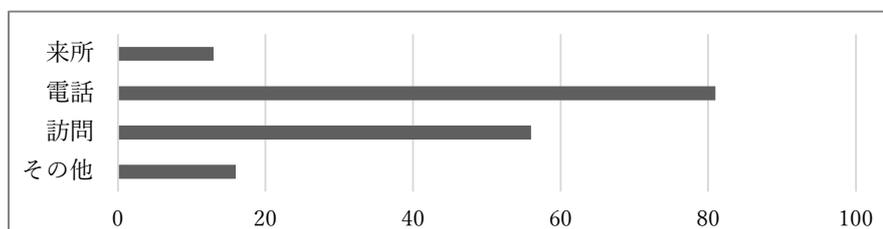
新型コロナウイルス感染症の影響を受け、さまざまに制限されて地域の活動も中止・縮小となりましたが、徐々に緩和されて日常が戻ってきています。

ただ、以前通りに戻った活動があれば、支援者の事情が変わって元のようにはいかないものもあるようです。地域包括支援センターのブランチとして、市内でも最も高齢化率の高い牛窓町地区を中心に高齢者の総合相談窓口の役割を果たし、地域の啓発活動や民生委員協議会へ積極的に参加していく事で、個別・地域のニーズ把握に繋がると考えています。

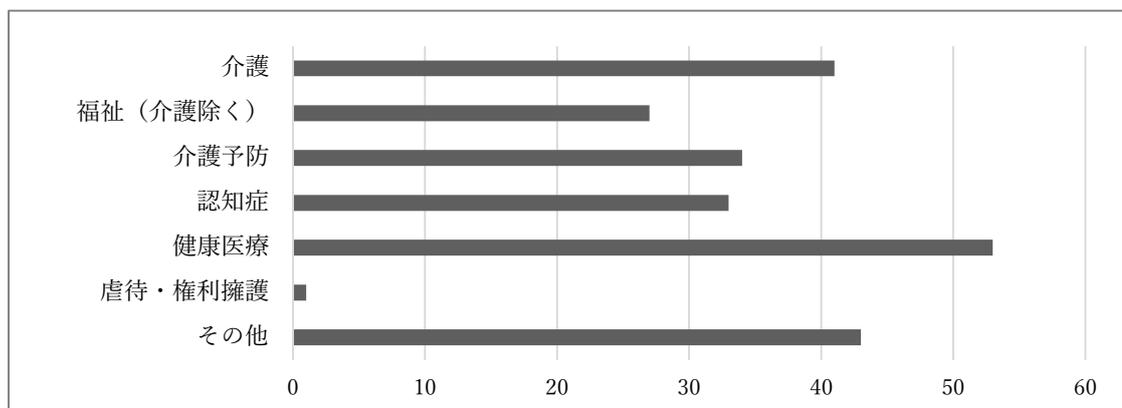
#### ● 実態把握



#### ● 相談形態内訳



#### ● 相談内容内訳



#### ● 展示物無料貸出

品目	件数	貸出理由
車椅子	2	退院時、外出時

## 2. 公益事業

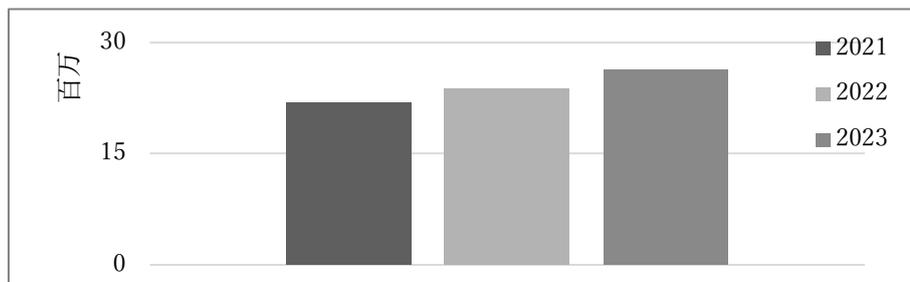
### ① 在宅介護支援センターAJISAI（あじさい）（居宅介護支援事業所）

地域包括支援センターからの委託を受け、要支援者のプラン作成や介護支援専門員を増員したことで牛窓町外の新規相談にも対応することができ、居宅件数増加に繋がっています。

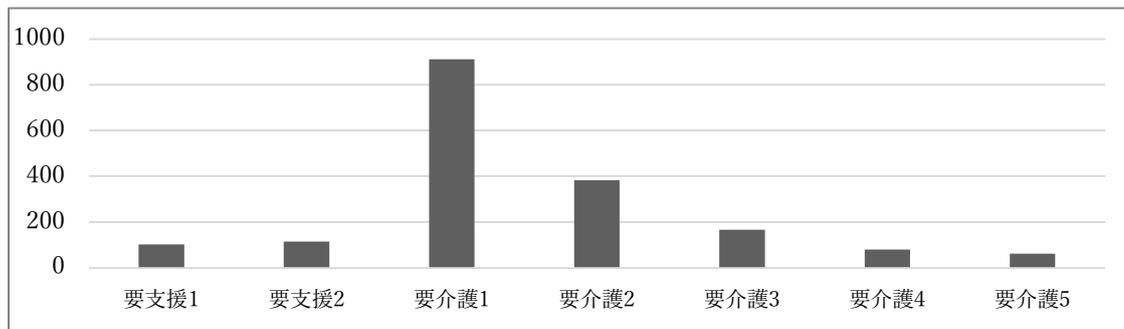
牛窓地区は居宅介護支援事業所が少なく、ますますニーズは高まると予想されます。

令和6年度は介護保険改正がありますので、より適正にマネジメントを行って、ご利用様の満足度が上がるようなサービスに繋げて在宅生活を支援していきます。

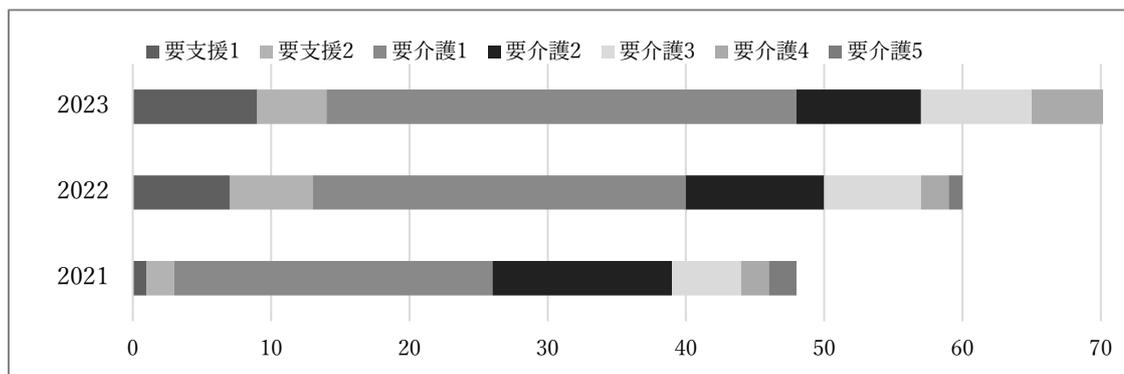
- 収入



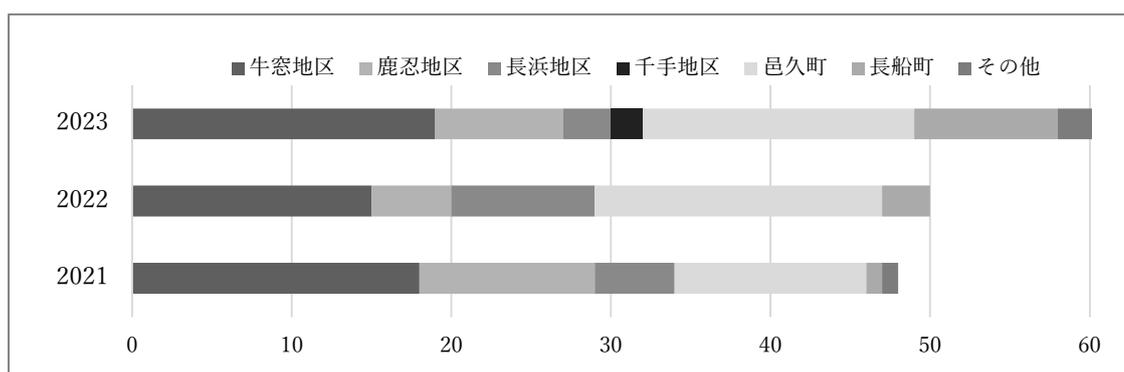
- 要介護状態区分別 延べ利用者数



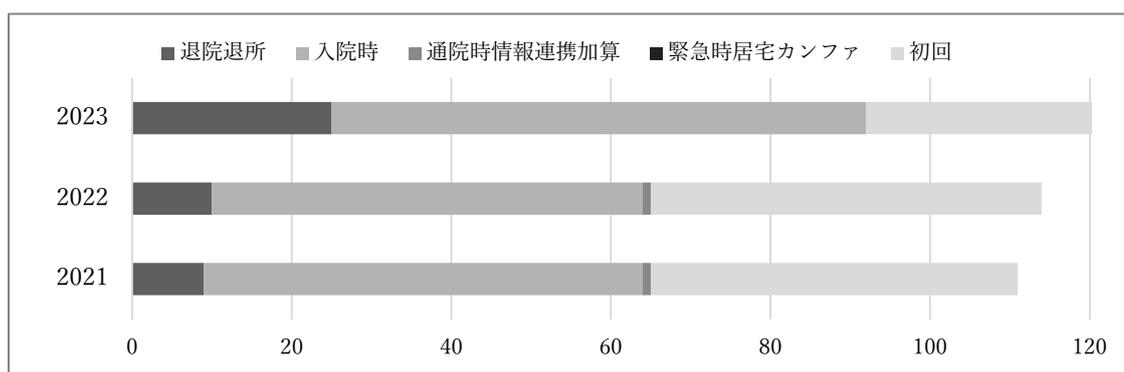
- 要介護認定区分別 新規利用者数（重複あり）



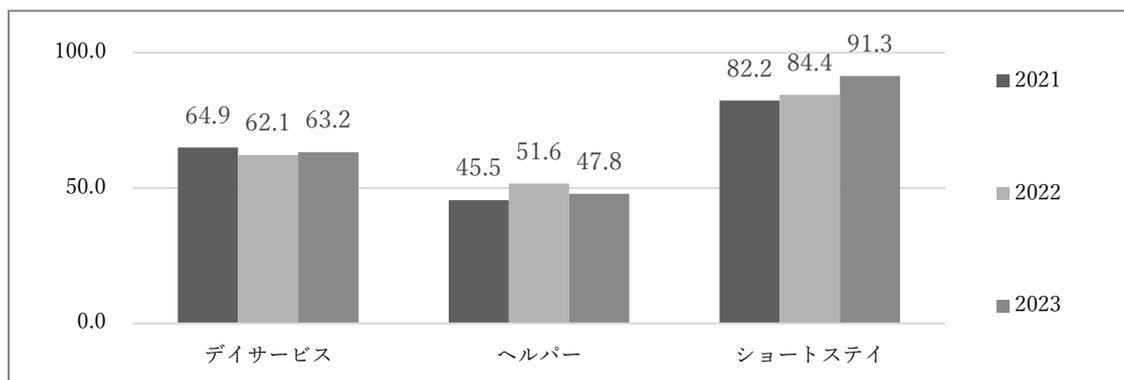
- 地区別 新規利用者数



- 各種加算取得内訳



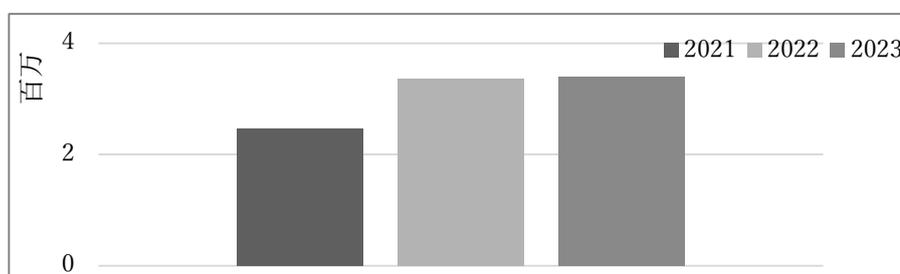
● 法人内事業所 特定事業集中減算適用率



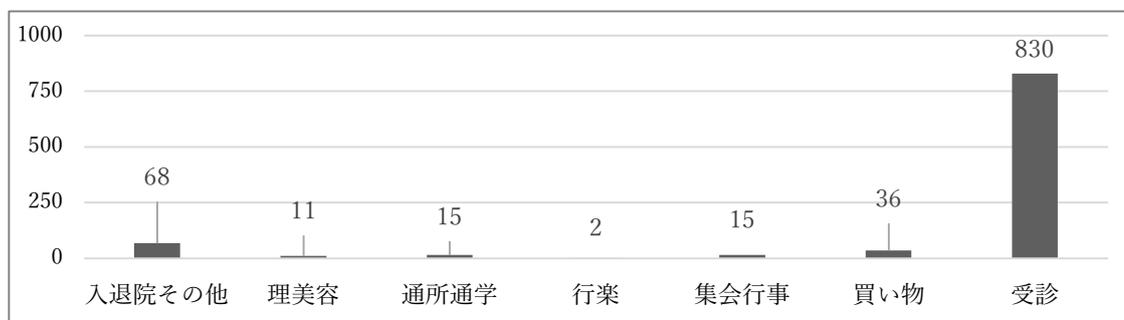
② 福祉移送サービスあじさい（福祉有償運送事業）

公共交通の利便性の問題や瀬戸内市によるタクシーチケット導入に伴い、牛窓町外からの希望者も多く福祉有償運送の利用者は増加しています。移動手段の確保は生活の要となりますので、今後も高いニーズが継続すると考えられます。引き続き安全運転を行い、地域貢献に努めてまいります。

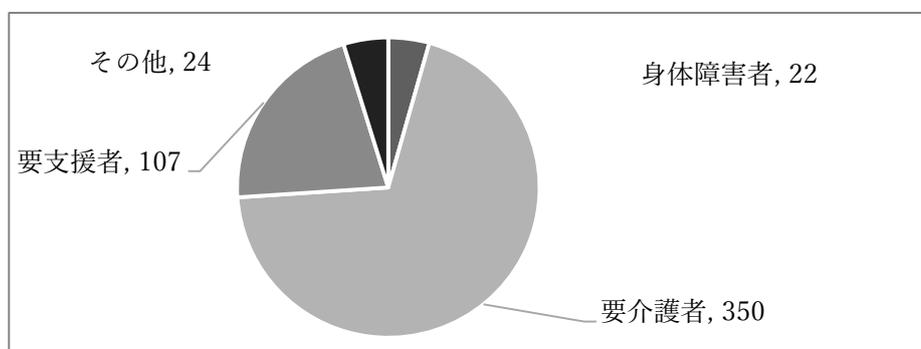
● 収入



● 利用用途



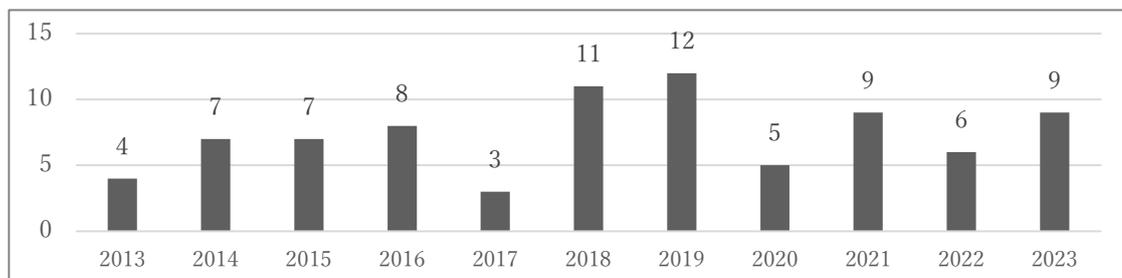
● 区分別 利用者数



③ 介護職員初任者研修事業

平成 25 年より開講し、11 回目の開講となりました。毎年少人数ではありますが、職員の資格取得支援、就職、保育所の利用にも繋がるケースもあり、地域福祉の向上や福利厚生に繋がっているものと考えております。

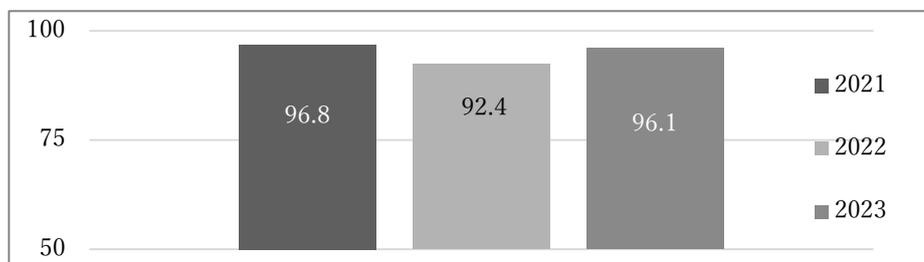
- 受講生数



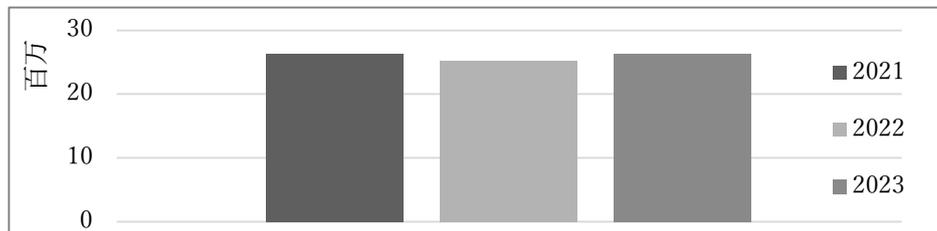
- ④ グレースコートあじさい（サービス付き高齢者向け住宅）

住まいのあり方が多様化する中で、利用者の一時的な住まいとして活用されている現状です。市内の施設増加によるものや利用料負担の部分で、利用者の確保については厳しい状況は続いております。令和5年度については病院からの紹介や小規模利用者が入居という流れが多くありました。また、利用者の軽度化が進んだ年度でもありました。新型コロナウイルス感染症が5類となりましたが、地域での流行もあり面会制限は行っておりました。その中でも多くの方の面会があり、外出については制限がないため、家族との交流を図ることができました。

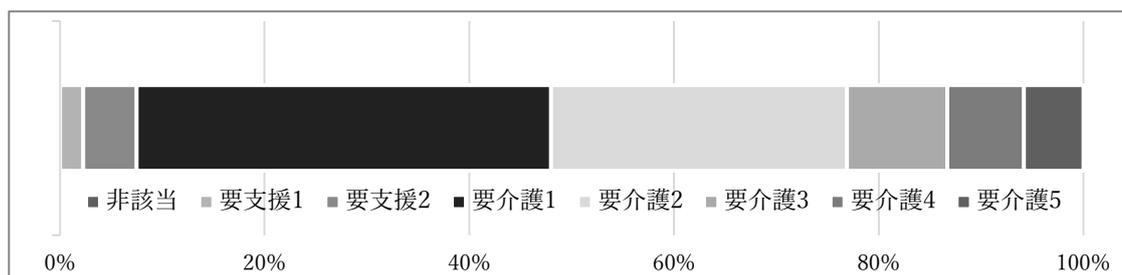
- 稼働率



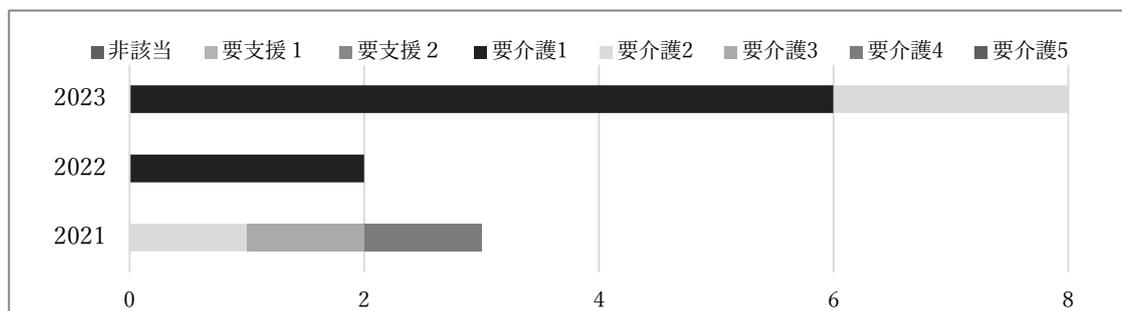
- 収入



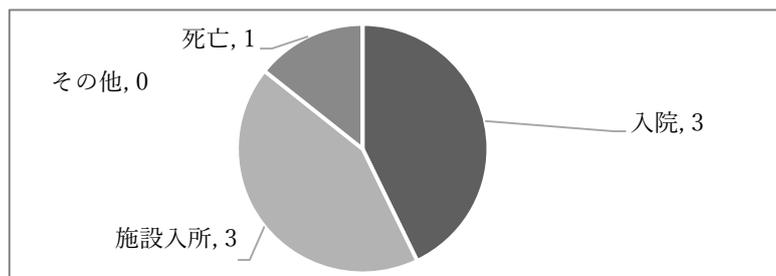
- 要介護認定区分別 利用者延数割合



- 要介護認定区分別 新規利用者数



- 退居理由

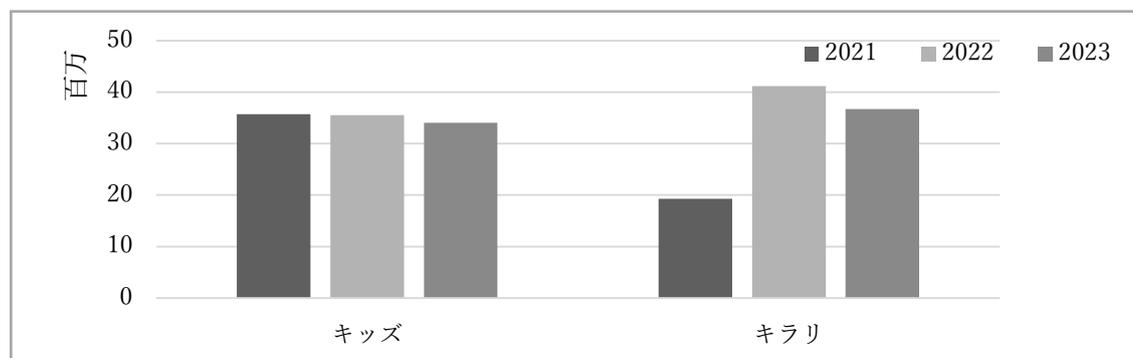


- ⑤ キッズあじさい・キラリあじさい（企業主導型保育事業）

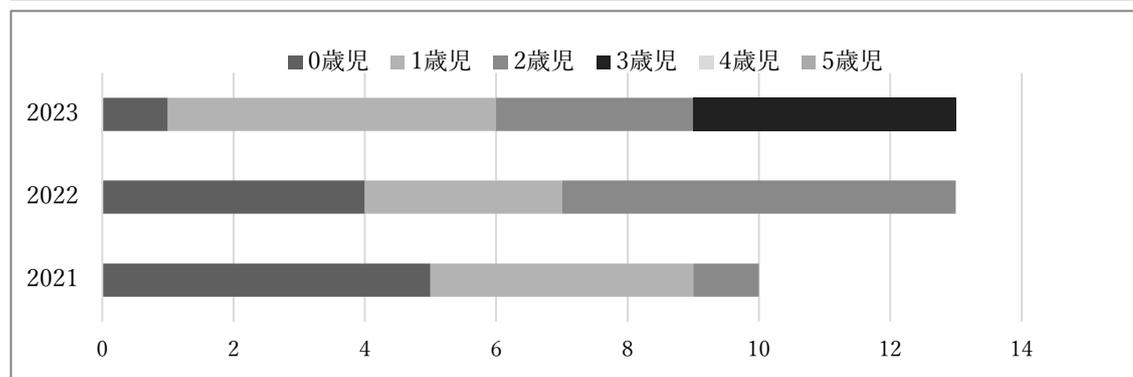
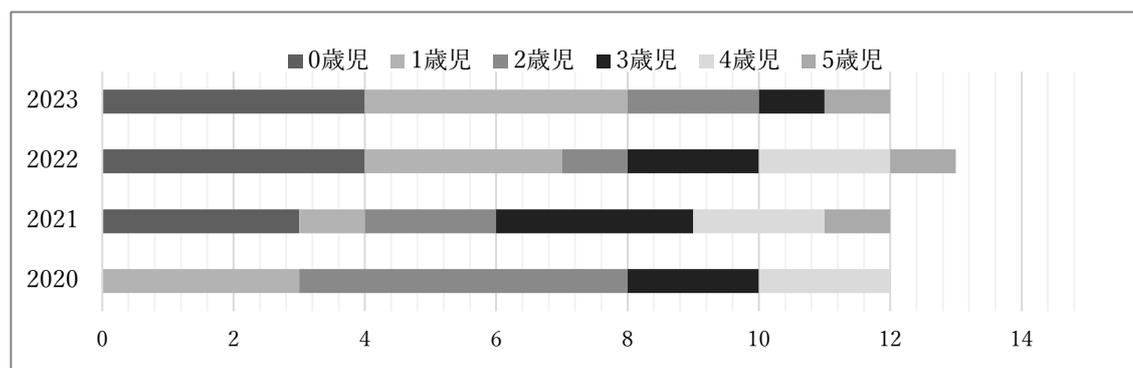
より開かれた保育園の運営を目的に、保護者様向けの見学会を年2回実施いたしました。また、IoT化推進の代表として「ルクミー」を連絡帳として活用しておりますが、それ以外にも、これまで紙ベースで手渡していたものを徐々に変換していくことができました。

敬老の日に、園児たちが各施設を訪問する機会を設け、高齢者との交流を再開しました。今後も一人ひとりの個性を大切にされた保育に努め、稼働率アップに繋げてまいります。

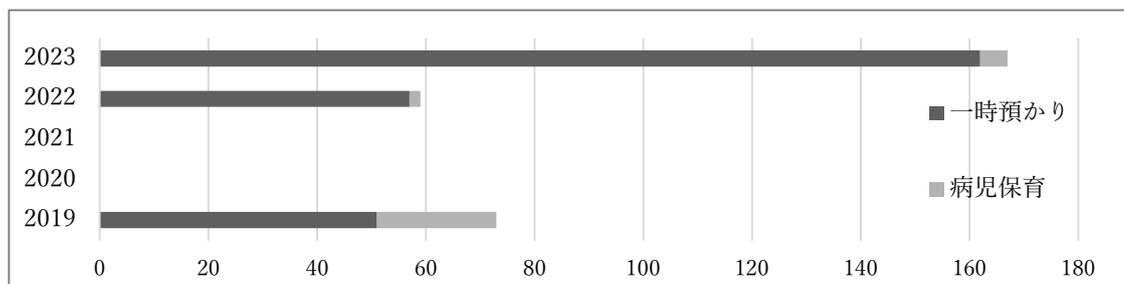
- 収入



- 定期・不定期 延べ児童内訳（上段：キッズ 下段：キラリ）

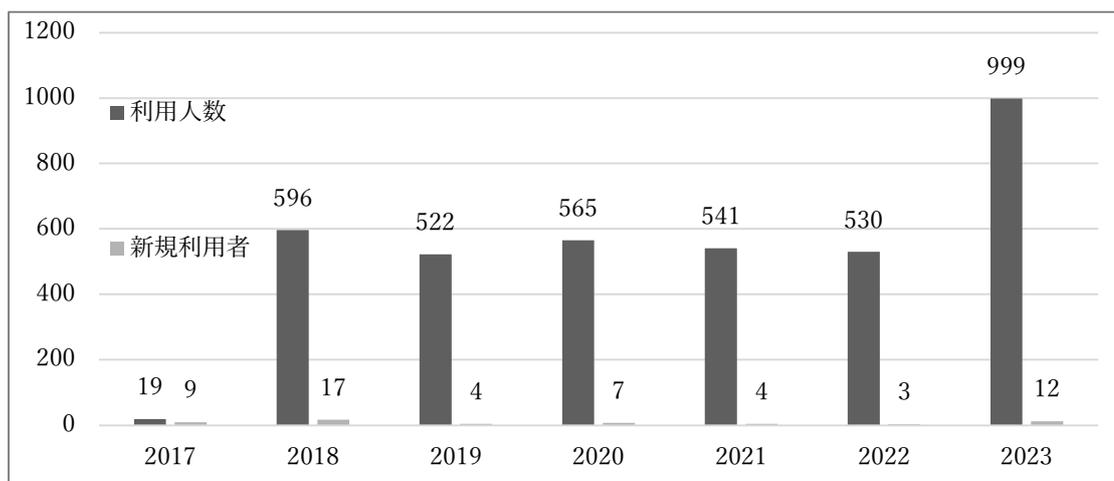


● 一時預かり・病児保育



3. その他法人全体にかかわる事業

① ヘルスケアセンター：介護保険対象者以外の健康増進のためのサービス提供に努めています。今年度は地域包括支援センターからの問い合わせと新規登録数が増え、それと共に既存登録者の利用回数の増加により、過去5年平均の1.8倍の利用者数となりました。



② あじさい納涼夏祭り：「あじさいサプライズ花火大会」9/29(金)18:30～ 約10分間実施

③ 喫茶うしまど：コロナの影響及び人員確保の問題で休止（令和5年度は開催なし）

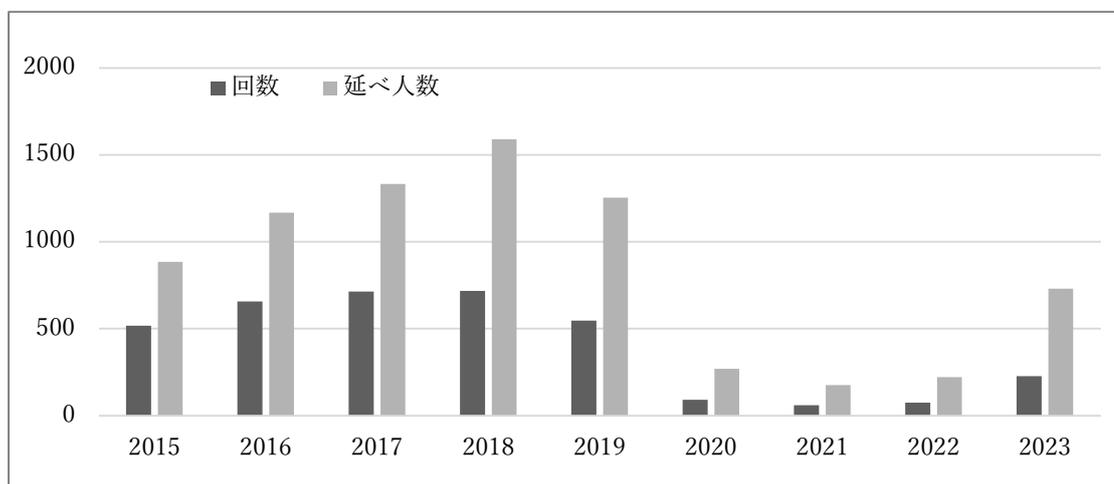
④ カフェあじさい：グレースケア1Fでの地域住民とのカフェは、コロナの影響で中止

⑤ サロン活動・施設見学：地域の公民館等にて住民に向けた研修会もコロナで縮小

日時	地区・サロン名	内容	参加者数
R5.11.14	長浜上区サロン	健康管理	13名

⑥ あじさいホールの活用：保育事業による催し、施設利用者への音楽療法に使用

⑦ ボランティアの受入：活動回数、延べ人数とも昨年に比べ、3倍の実績。



⑧ 主な会議

名称	頻度	主な内容	参加者
運営会議	週1回	運営及び人事等	理事長・施設長・事務部長・各部長補佐
連絡会議	月2回	週間行事確認 運営会議・他会議内容報告等	各事業所より1名以上
施設部会議 在宅部会議	月1回 月1回	新規利用者報告 身体拘束適正化委員会・ICT委員会 リスクマネジメント委員会（事故苦情） OJT委員会・業務改善・環境整備 広報・腰痛機器・サービスメニュー マニュアル確認・ボランティア他	施設部会議（特養職員） 在宅部会議（特養以外職員）
栄養部会議	月1回	設備管理、食事メモ、業務調整他	施設長・管理栄養士・調理員
相談員会議	月1回	リスクマネジメント委員会 OJT委員会・広報・サービスメニュー マニュアル確認・防災管理 就職セミナー・ボランティア 福利厚生他	施設長・生活相談員
介護職員会議	月1回	事故苦情報告・OJT委員会 サービスメニュー・マニュアル確認 EPA介護福祉士候補生等受入調整他	施設長・介護職員
医療職員会議	月1回	感染対策委員会 安全委員会（喀痰吸引） 衛生管理委員会（労働安全衛生） 給食委員会・口腔ケア・リハビリ OJT委員会他	施設長・看護師・管理栄養士・理学療法士・作業療法士・歯科衛生士
※その他事業所別会議、カンファレンス等も定期・随時開催			

⑨ 研修

■ 外部研修 計 73件 100名参加（昨年比 12件増 6名増）

■ 内部研修

新人研修 採用時施設長より説明（オリエンテーション）

自主研修 年1回 「専門職・組織人として目標と振り返り」

事業所研修（全事業所）

4月	防災教育～非常災害時等	資料作成：防災管理委員会
5月	認知症ケアについて	資料作成：介護部
6月	感染症（食中毒）について	資料作成：看護部
7月	緊急時対応・危険予知訓練等	資料作成：介護部
8月	上半期振り返り	資料作成：所属長

9月	高齢者虐待防止	資料作成：相談部
10月	防災教育～非常災害時	資料作成：防災管理委員会
11月	結核及び感染症について	資料作成：看護部
12月	緊急時対応・危険予知訓練等	資料作成：介護部
1月	下半期振り返り	所属長又は相談部
2月	接遇	資料作成：施設長
3月	褥瘡予防	資料作成：看護部

全体研修

4月	法令遵守・事業計画等（YouTube 配信） 講師：理事長・施設長	全員
6月	普通救命講習 講師：瀬戸内消防署、担当：相談部	11名
8月	喀痰吸引研修 手技確認等 担当：看護部	夜勤者
10月	マネジメント研修 講師：施設長	47名
11月	普通救命講習 講師：瀬戸内消防署、担当：相談部	13名
2月	喀痰吸引研修 手技確認等 担当：看護部	夜勤者